

平成 25 年度
子ども・子育て家庭意識・生活実態調査
報告書
(概要版)

平成 26 年 3 月
名古屋 市

目 次

序 調査目的と調査方法

調査目的	1
調査方法	1

子どもアンケート

平日放課後の過ごし方について	2
平日の授業以外の勉強時間について	4
家の手伝いについて	5
平日の起床時間と就寝時間について	6
インターネットの利用時間について	8
経済的な生活レベルについて	10
あなたの悩みなどについて	10
悩みの相談相手について	12
自分について	13
今の生活について	14
40歳になった時の状態について	15
将来の仕事について	16
進学希望	17

保護者アンケート

両親の就労状況について	18
母親の就労形態について	19
在宅の母親の就労希望	20
育児休業の取得について（就学前）	21
今後の教育・保育事業の利用希望について（就学前）	22
子育てを通じて良かったと感じたことについて	24
子育ての悩みや不安について	24
名古屋市の子育て支援の取り組みについて	27
理想の子どもの人数	28
理想の子どもより少ない理由	29
仕事と生活のバランス	30
現在の暮らし向き	32
子育てに対する経済的負担	32
特に負担に感じる費用	33
平日の放課後の過ごし方	34

序 調査目的と調査方法

1 調査の目的

平成 26 年度に策定予定のなごや子ども条例第 20 条の規定による「子どもに関する総合計画」及び子ども・子育て支援法第 61 条の規定による「市町村子ども・子育て支援事業計画」策定の基礎資料とするため子育て家庭及び子どもの意識・生活実態・ニーズ等を調査する。

2 調査対象

名古屋市内に居住する者のうち、次の年齢に該当する子どもを住民基本台帳から無作為に抽出し、調査対象とした。

① 子育て家庭

ア) 0 歳～5 歳の子どもの属する世帯 12,000 世帯

イ) 6 歳～17 歳の子どもの属する世帯 12,000 世帯

② 子ども 10 歳～17 歳の子ども 8,000 人

①のイ)のうち、子どもが10歳以上の世帯については子どもも調査対象とした。

3 質問項目

① 保護者用

(ア) 子どもの年齢が0歳～5歳の世帯

フェイス項目11項目、設問項目22問と付問、自由記述項目1項目

(イ) 子どもの年齢が6歳～17歳の世帯

フェイス項目11項目、設問項目19問と付問、自由記述項目1項目

② 子ども用 フェイス項目6項目、設問項目36問と付問、自由記述項目1項目

4 調査方法

① 調査方法

郵送で配布し、郵送で回収した。

② 調査期間

平成25年10月10日～10月31日

③ 回収状況

発送数 24,000 に対して、10,075 の有効回答が寄せられ、全体の回収率は 31.5% である。

また、就学前保護者の回収率は 35.9%、就学後保護者の回収率は 30.1%、子どもの回収率は 26.7% であった。

区分	発送数	回収数	回収率 (%)
就学前保護者	12,000	4,311	35.9
就学後保護者	12,000	3,616	30.1
子ども	8,000	2,148	26.9
合計	32,000	10,075	31.5

子どもアンケート

平日放課後の過ごし方について

■あなたは平日の授業後、主にどこで過ごしますか。(3つまで)

- ◇ 全体の 83.3%は「自分の家」で過ごしている。また、「学校で行われる部活動」が 50.8%、「学習塾・予備校」が 28.2%、「習い事」が 21.0%、「友達の家」が 11.2%となっている。
- ◇ 小学生、中学生、高校生を比較すると、小学生は他に比べて「習い事」「公園、道路」「友達の家」で過ごす割合が高く、中学生は「学習塾、予備校」、高校生は「コンビニやショッピングセンター」「ファストフード店やファミリーレストラン」が高くなっている。

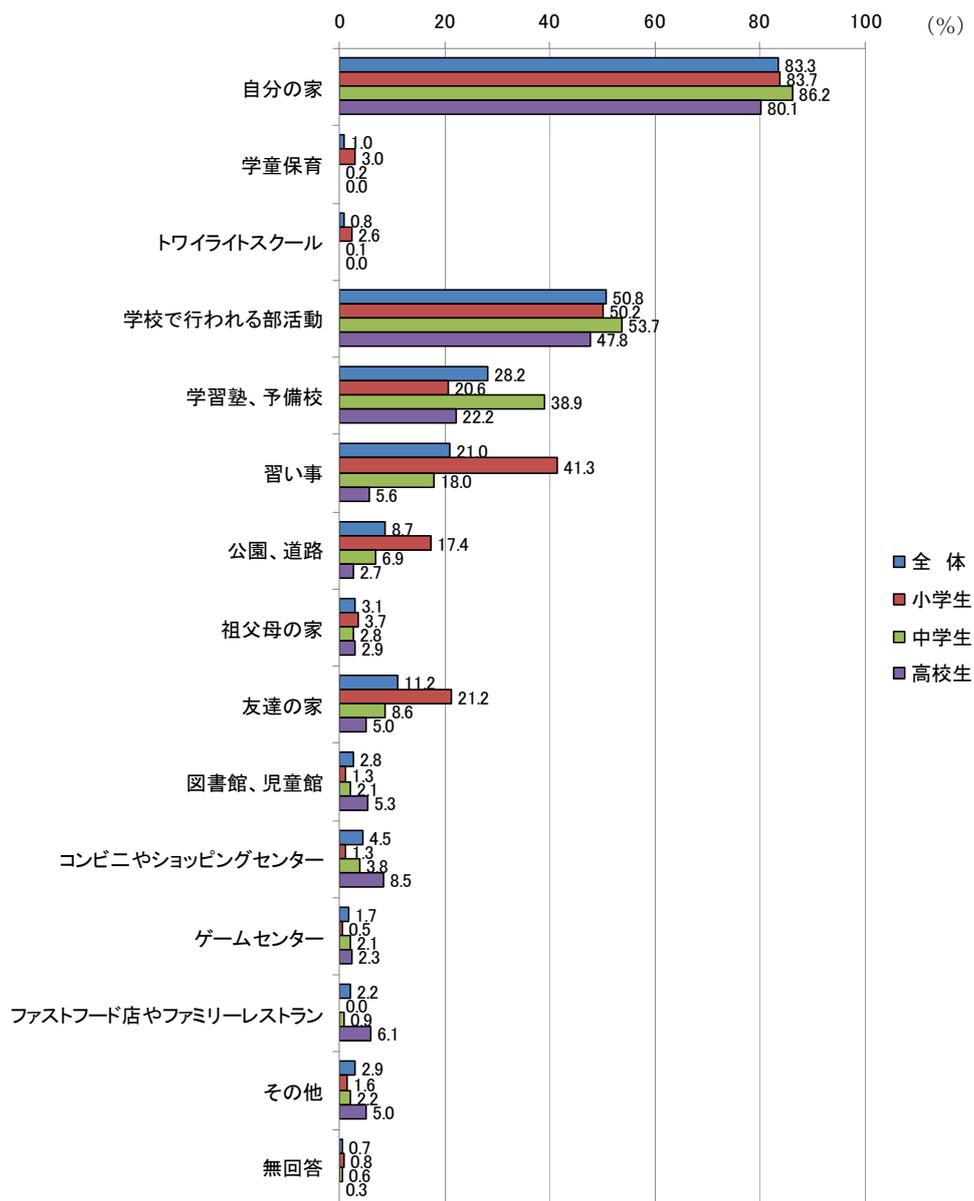


図 平日の放課後の過ごし方

回答数 全体=4,789 小学生=1,562 中学生=1,921 高校生=1,274

【5年前からの変化】

- ・全体では、自分の家で過ごす子が約6%増え、友達の家で過ごす子が約6%減った。
- ・自分の家で過ごす割合の増加量は小学生が8.2%と最も多く、友達の家で過ごす割合の減少量は中学生が9.8%と最も多い。

	自分の家で過ごす		変化量	友達の家で過ごす		変化量
	平成20年	平成25年		平成20年	平成25年	
小学生	75.5	83.7	8.2↑	30.3	21.2	9.1↓
中学生	81.4	86.2	4.8↑	18.4	8.6	9.8↓
高校生	75.6	80.1	4.5↑	8.4	5.0	3.4↓

『平日の放課後を過ごす場所と学年』

- ★ 「学年」が小さい子の方が友だちの家で過ごす子の割合が高く小学生、中学生、高校生のいずれの区分でも5年前より低下している。

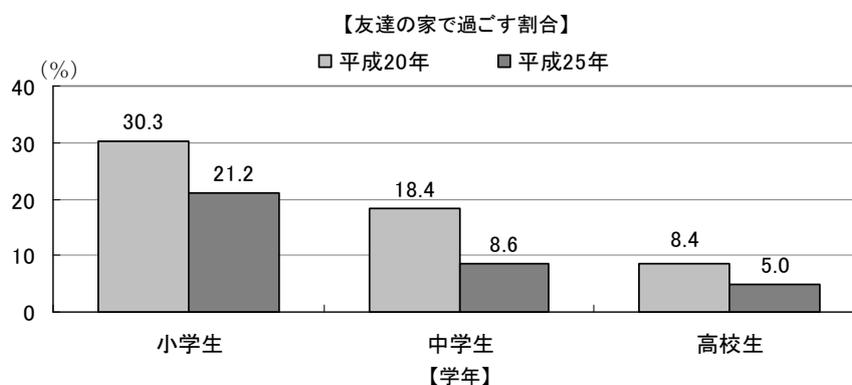


図 学年別の友達の家で過ごす割合

平日の授業以外の勉強時間について

■あなたは平日、学校の授業のほかにどのくらい勉強をしますか。(1つ)

- ◇ 「1時間～2時間」が25.7%と最も多く、次いで「30分～1時間」が24.7%、「30分以内」が19.8%となっている。また、「2時間以上」(わからないを除く)は合わせて26.5%である。
- ◇ 「2時間以上」(わからないを除く)は小学生が19.9%、中学生が30.1%、高校生が28.4%となっている。

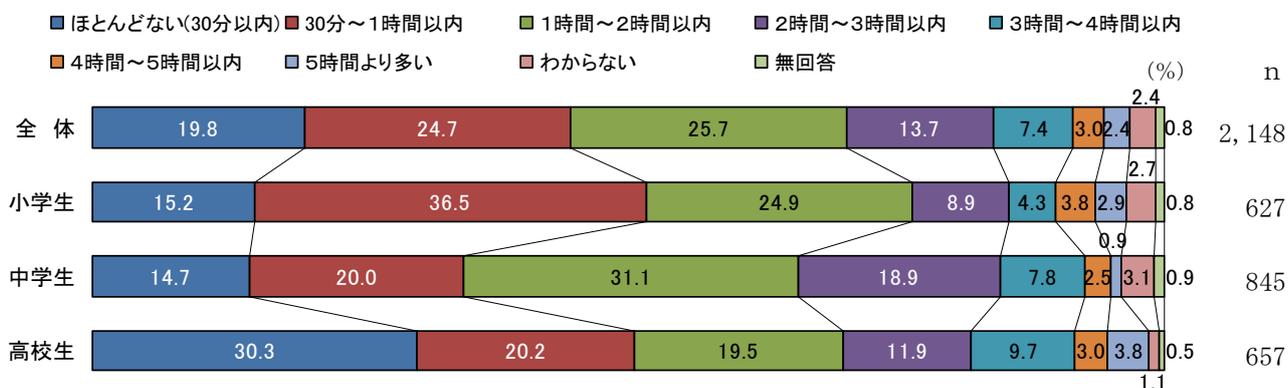


図 普段の勉強時間

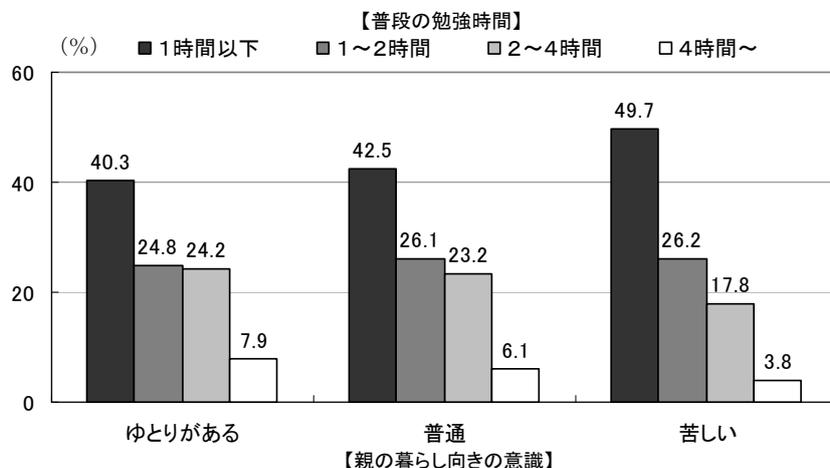
【5年前からの変化】

- ・全体では、勉強時間が2時間以内の子が約4%増えた。
- ・2時間以内の割合の増加量は中学生が7.7%と最も多い。

	2時間以内		変化量
	平成20年	平成25年	
小学生	74.3	76.6	2.3↑
中学生	58.1	65.8	7.7↑
高校生	70.4	70.0	0.4↓

『普段の勉強時間と親の暮らし向き意識』

- 親が「生活にゆとりがある」と回答した子の方が2時間以上勉強する割合が高い。



※親の暮らし向き意識：ゆとりがある＝大変ゆとりがある＋ややゆとりがある、苦しい＝やや苦しい＋苦しい

図 親の暮らし向き意識と普段の勉強時間

家の手伝いについて

■あなたは家の手伝いをしますか。(1つ)

- ◇ 全体では、「ときどきする」が47.9%で最も多く、次いで「あまりしない」が26.8%、「よくする」が16.3%となっている。また、「しない」が8.0%である。
- ◇ 小学生のほうが手伝いをする割合は高く、中学生、高校生になるにつれてその割合が低下する。

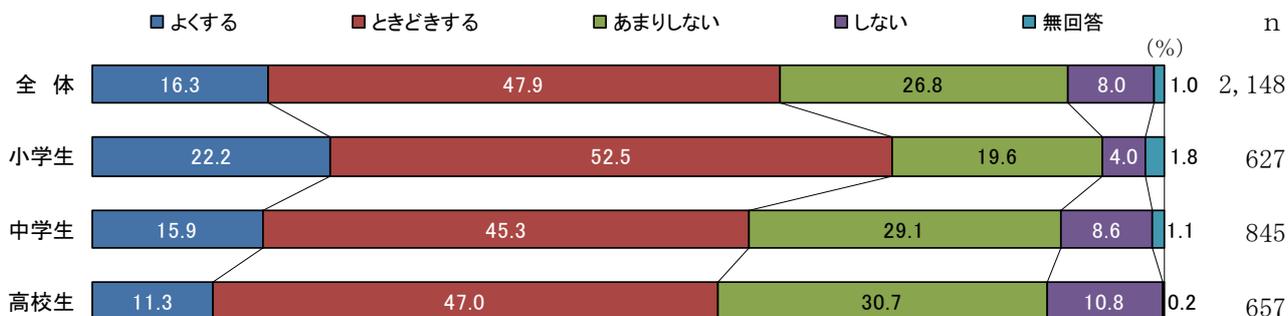


図 家の手伝いをする割合

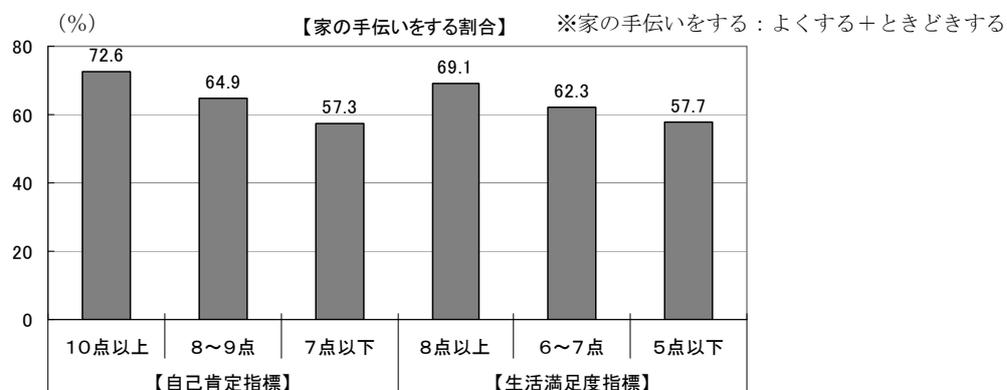
【5年前からの変化】

- ・全体では、手伝いをする子が、約7%増えた。
- ・手伝いをする割合の増加量は高校生が8.9%と最も多い。

	よくする+ときどきする		変化量
	平成20年	平成25年	
小学生	73.7	74.7	1.0 ↑
中学生	57.1	61.2	4.1 ↑
高校生	49.4	58.3	8.9 ↑

『家の手伝いと自己肯定感・生活満足度』

- 手伝いをする子は「自己肯定感」や「生活満足度」が高い。



※ 指標の得点が高い方が自己肯定感や生活満足度が高い

図 自己肯定感・生活満足度と手伝いをする割合

平日の起床時間と就寝時間について

■平日の起きる時間と寝る時間はだいたい何時ですか。(1つ)

(1) 起きる時間

- ◇ 全体では「午前6時台」に起きる割合が47.1%と最も高く、「午前7時台」が43.8%である。
- ◇ 高校生は小学生に比べて早く起きる割合が高く、61.7%が「午前6時台」までに起きている。

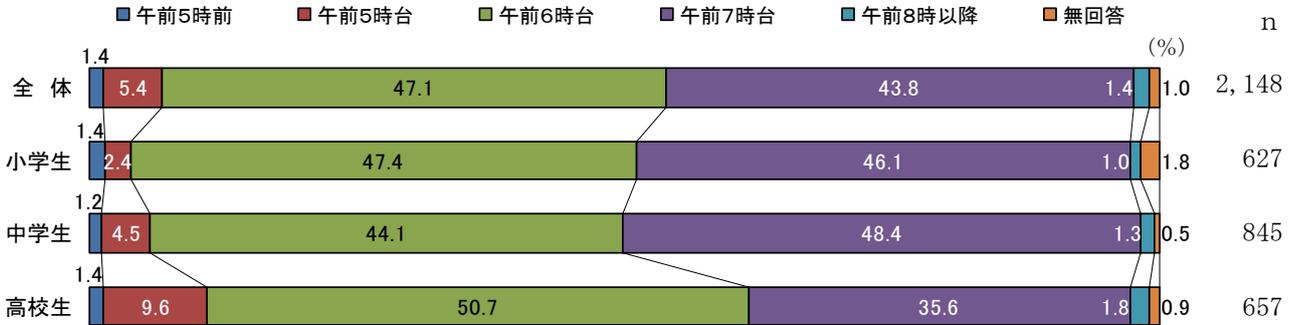


図 平日の起床時間

(2) 寝る時間

- ◇ 全体では「午後11時台」に寝る割合が32.2%と最も高く、「午後10時台」が27.7%となっている。
- ◇ 小学生は「午後10時台」の割合が高いが、中学生、高校生になると「午後11時台」「深夜12時台」の割合が高くなり、高校生では56.9%の人が深夜12時以降に寝ている。

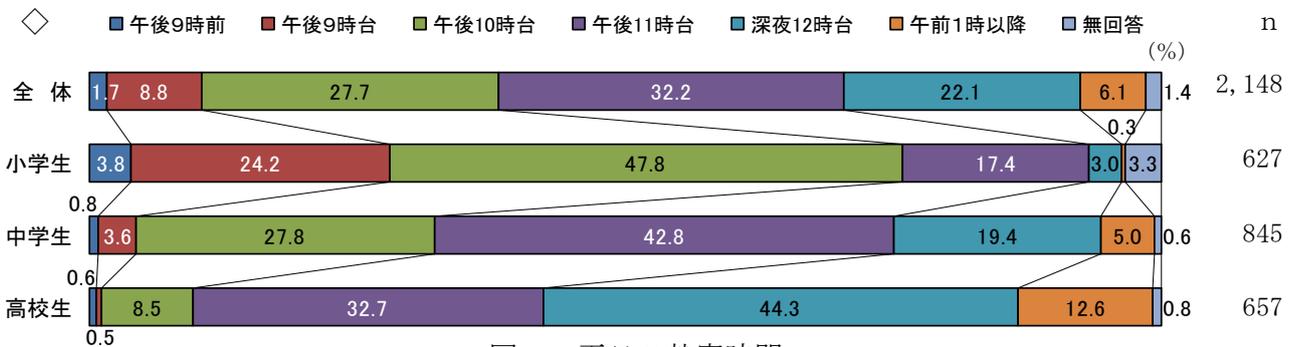


図 平日の就寝時間

【5年前からの変化】

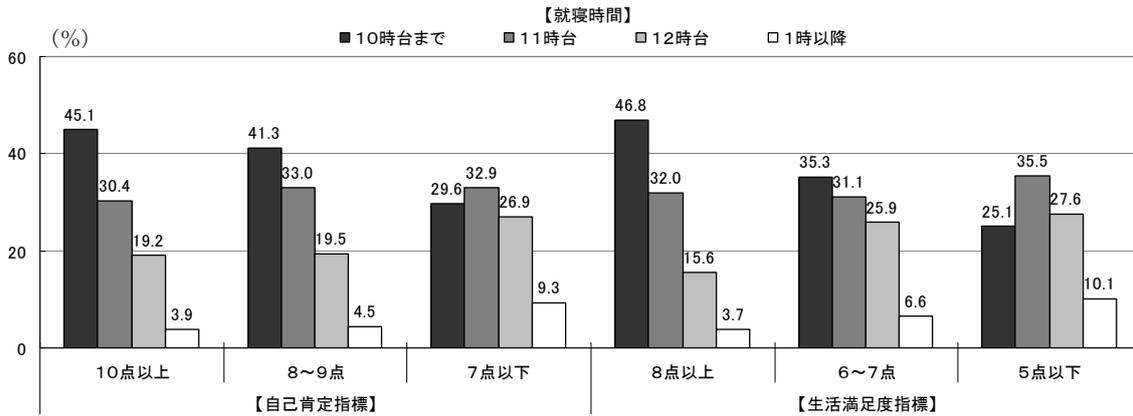
- ・全体では、午前7時前に起きる割合が約6%増え、午後11時以降に寝る割合が約12%減った。(早寝早起きの子どもが増えた)
- ・午前7時前に起床する割合の増加量も午後11時以降に就寝する割合の減少量も、小学生が最も多い。

	午前7時前に起床		変化量
	平成20年	平成25年	
小学生	40.0	51.2	11.2 ↑
中学生	44.2	49.8	5.6 ↑
高校生	56.4	61.7	5.3 ↑

	午後11時以降に就寝		変化量
	平成20年	平成25年	
小学生	32.4	20.7	11.7 ↓
中学生	74.9	67.2	7.7 ↓
高校生	93.1	89.6	3.5 ↓

『就寝時間と自己肯定感・生活満足度』

○ 「自己肯定感」や「生活満足度」が低い子の方が就寝時間が遅い。



※ 指標の得点が高い方が自己肯定感や生活満足度が高い

図 自己肯定感・生活満足度と就寝時間

インターネットの利用について

■あなたは学校の授業以外でパソコンや携帯電話でインターネットを1日どれくらい使いますか。(1つ)

- ◇ 全体では、「～29分」が19.7%で最も多く、次いで「1時間～1時間59分」が18.5%、「30分～59分」が18.4%となっている。
- ◇ 高校生になると、「使わない」の割合が小学生の1/4以下まで低下し、2時間以上の構成比が42.8%になる。

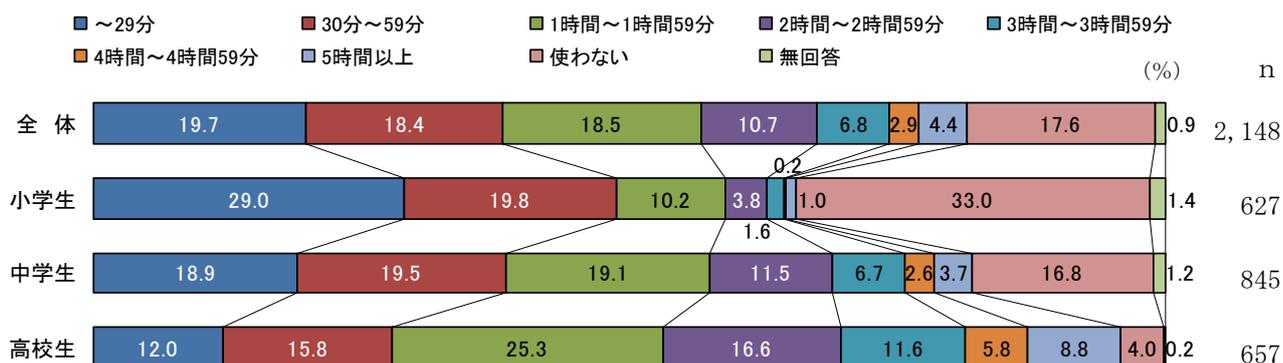


図 1日のインターネットの利用時間

【5年前からの変化】

- ・ 全体では、1日2時間以上使用する子が約13%増え、使わない子が約15%減った。
- ・ 2時間以上使用する割合の増加量もインターネットを使わない割合の減少量も、高校生が最も多い。

	2時間以上		変化量	使わない		変化量
	平成20年	平成25年		平成20年	平成25年	
小学生	3.7	6.6	2.9↑	46.5	33.0	13.5↓
中学生	14.0	24.5	10.5↑	32.6	16.8	15.8↓
高校生	15.1	42.8	27.7↑	24.1	4.0	20.1↓

『インターネットの使用時間と成績の自己評価』

- ◎ 「成績の自己評価」が低い子の方が2時間以上インターネットを利用する割合が多い。

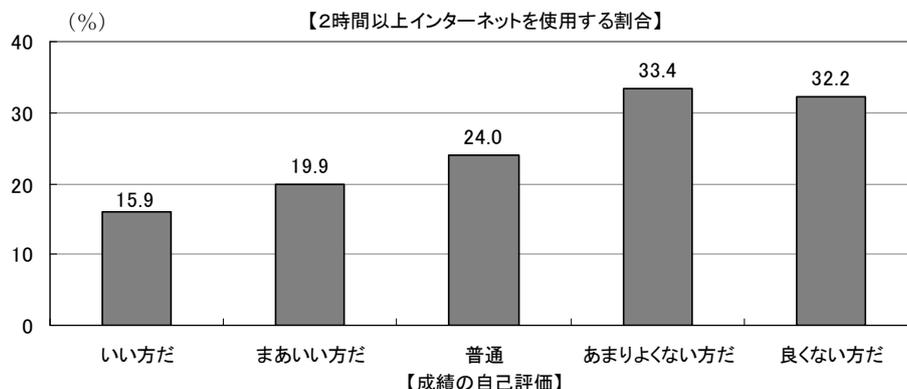


図 成績の自己評価別の2時間以上インターネットを利用する割合

『就寝時間とインターネットの使用時間』

◎ 「インターネットの使用時間」が長い子の方が就寝時間は遅い。

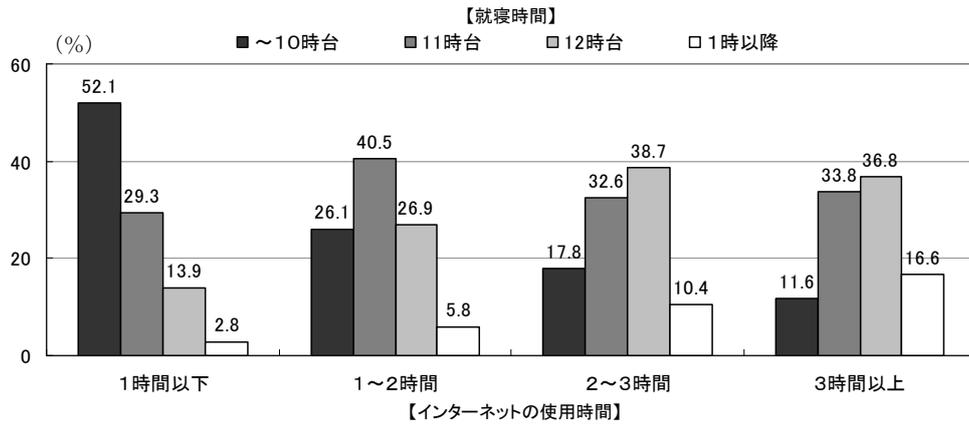
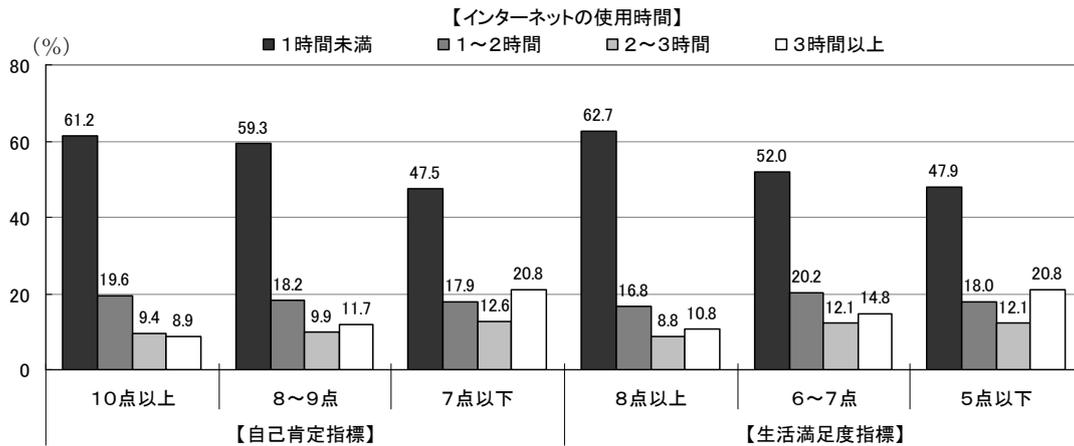


図 インターネットの使用時間と就寝時間

『インターネットの使用時間（子ども 問12）と

自己肯定感（子ども 問27）・生活満足度（子ども 問28）』

○ 「自己肯定感」や「生活満足度」が低いほどインターネットの使用時間が長い。



※ 指標の得点が高い方が自己肯定感や生活満足度が高い

図 自己肯定感・生活満足度とインターネットの使用時間

経済的な生活レベルについて

■あなたの家庭の「経済的な生活レベル」についてあなたはどう思いますか。(1つ)

- ◇ 全体では、「まあまあ豊かだ」が57.5%で最も多く、次いで「かなり豊かだ」20.1%であり、77.6%は豊かだと回答している。
- ◇ 小学生の場合、豊かだと感じている割合は84.0%であるが、高校生になるにつれてその割合が低下し68.5%となる。



図 経済的な生活レベルについて

あなたの悩みなどについて

■あなたはいまどんなことに悩んだり困ったりしていますか。(複数回答)

- ◇ 全体では、「勉強のこと」が43.9%と最も多く、次いで「将来のこと」が39.3%、「悩んだり困っていることはない」が29.9%となっている。
- ◇ 小学生は「悩んだり困っていることはない」の割合が相対的に高く、中学生、高校生になると「勉強のこと」「将来のこと」「自分の容姿のこと」の割合が相対的に高い。
- ◇ 「自分がかからだの性と心の性が違っていると感ずること」で悩んでいる人が0.9%である。

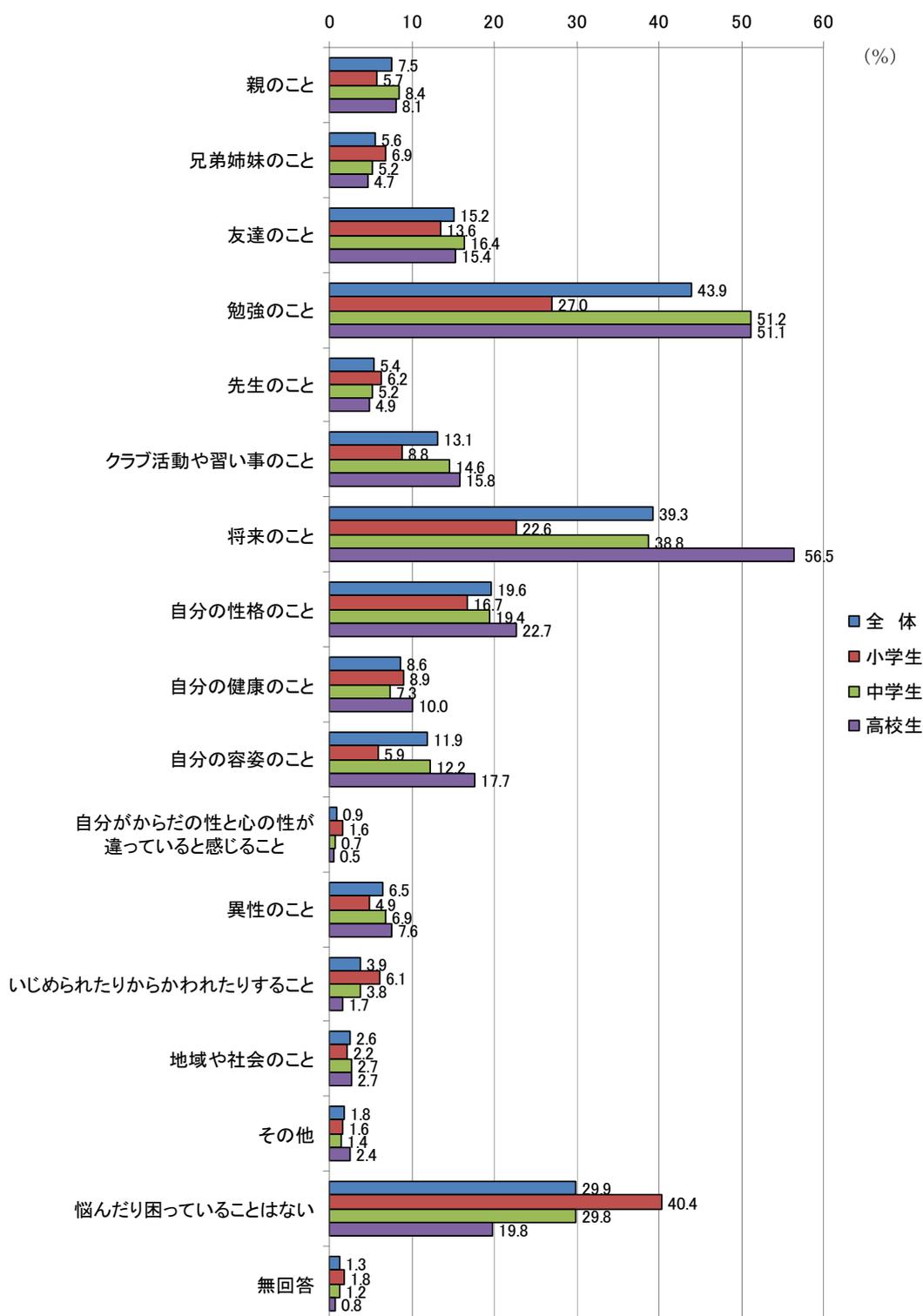


図 いまの悩みや困りごと

回答数 全体=4,665 小学生=1,134 中学生=1,904 高校生=1,592

【5年前からの変化】

- ・全体では、悩んだり困っていることはない子が約27%増えた。
- ・全体では、異性のことに悩む子が約5%、友達のこと悩む子が約4%減った。

悩みの相談相手について

■悩みやこまったことがあるときに相談する人はだれですか。(複数回答)

- ◇ 全体では、「お母さん」が61.4%で最も多く、次いで「友達」が53.1%、「お父さん」が26.9%、「担任の先生」が19.2%、「兄弟姉妹」が15.0%となっている。
- ◇ 小学生の場合、「お母さん」「お父さん」「担任の先生」の割合が高く、高校生になると、「友達」「学校の先輩」の割合が高くなる。
- ◇ 「お父さん」「お母さん」に相談する割合は、ともに小学生で最も高く、高校生で最も低い。

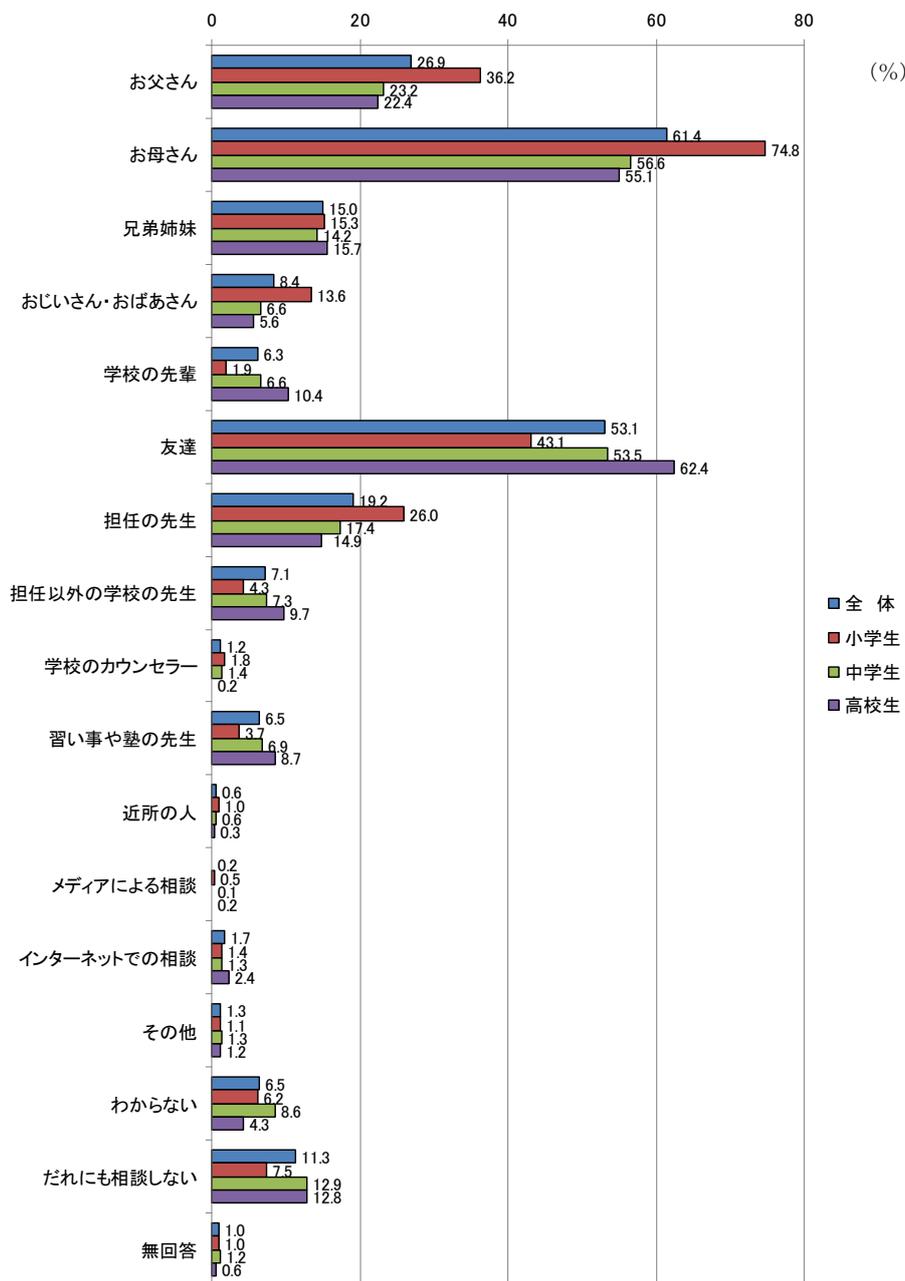


図 悩みや困りごとの相談相手

回答数 全体=4,888 小学生=1,500 中学生=1,857 高校生=1,490

【5年前からの変化】

- ・ 全体では、お母さんに相談する子が約7%、担任の先生が約5%、お父さんが約4%が増えた。また、誰にも相談しない子が約7%増えた。
- ・ 友達に相談する子が約9%減った。

自分について

■あなたは自分のことが好きですか。(1つ)

◇ 全体では、「どちらかといえば好き」が52.0%、「好き」が19.6%であり、自分のことが好きな割合は70%以上を占める。

◇ 高校生になるにつれて「どちらかといえば嫌い」「嫌い」の割合が高くなる。

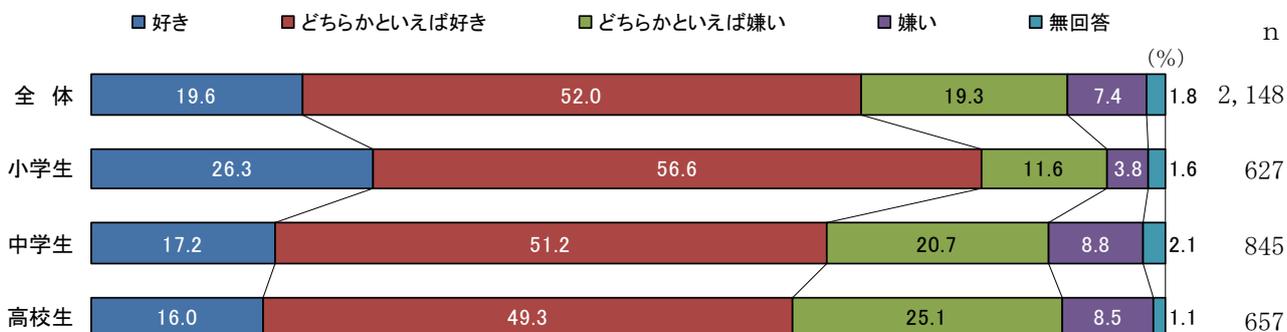


図 自分のことが好きな割合

『自分のことが好きかと性別』

○ 「男性」(75.7%)の方が「女性」(68.1%)より自分のことを好きな子が多い。

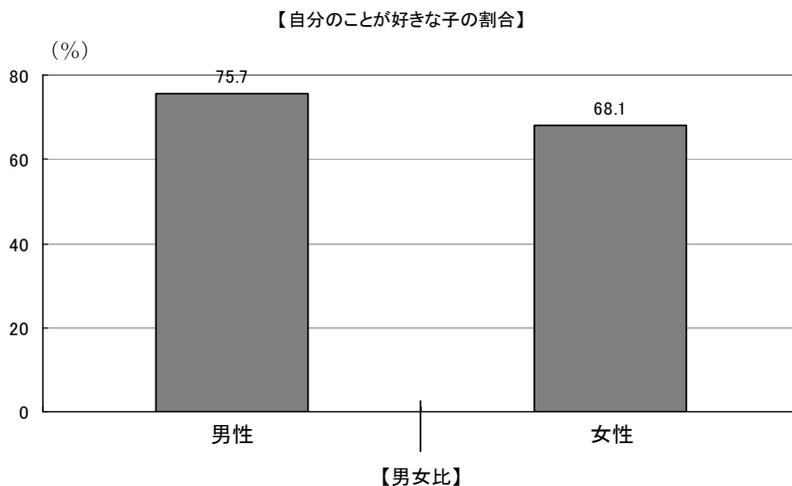
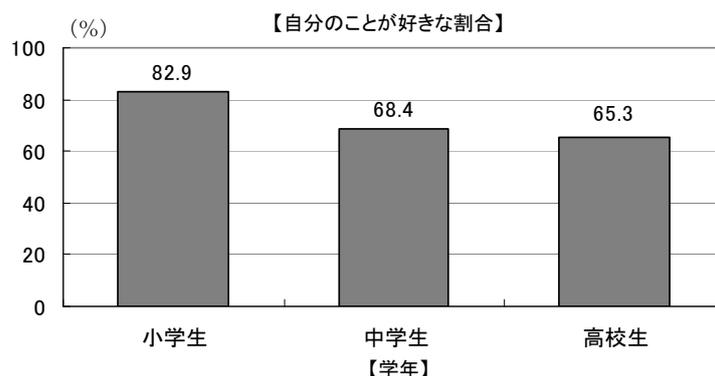


図 自分のことが好きな子の割合 (男女比)

『自分のことが好きかと学年』

◎ 「学年」が小さい子の方が自分のことを好きな子が多い。



※自分のことが好きな割合：好き+どちらかといえば好き

図 学年別の自分のことが好きな割合

今の生活について

■あなたは今の生活に満足していますか。(1つ)

◇ 全体では、「満足している」が44.1%、「どちらかといえば満足している」が38.8%で、合計が全体の80%以上の割合を占めている。

◇ 高校生になるにつれて、「満足している」の割合が低くなる。

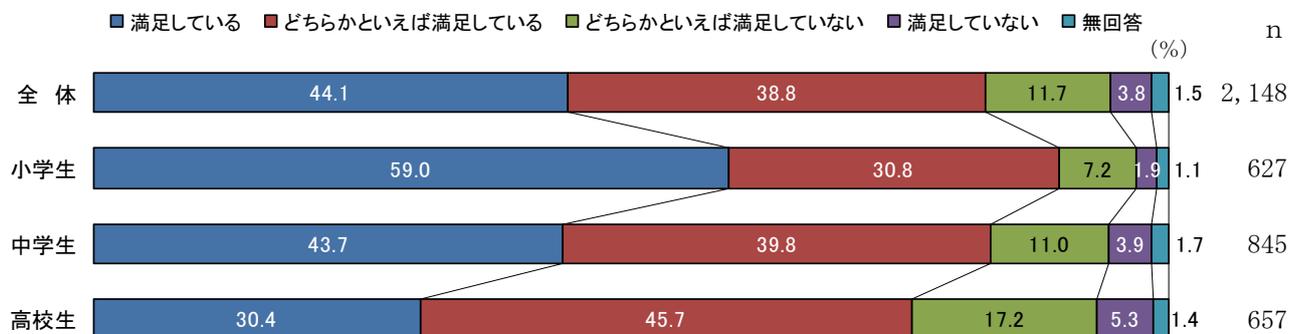


図 今の生活に満足している割合

40歳になったときの状態について

■あなたが40歳くらいになったとき、次のような状態になっていると思いますか。(複数回答)

- ◇ 全体では、「幸せになっている」が62.8%で最も多く、次いで「一生懸命、仕事をしている」が60.3%、「子どもを育てている」が59.3%、「親を大切にしている」が53.8%、「自由にのんびり暮らしている」が33.2%となっている。
- ◇ 「自由にのんびり暮らしている」「あてはまるものはない」以外の項目では、小学生の割合が最も高い。

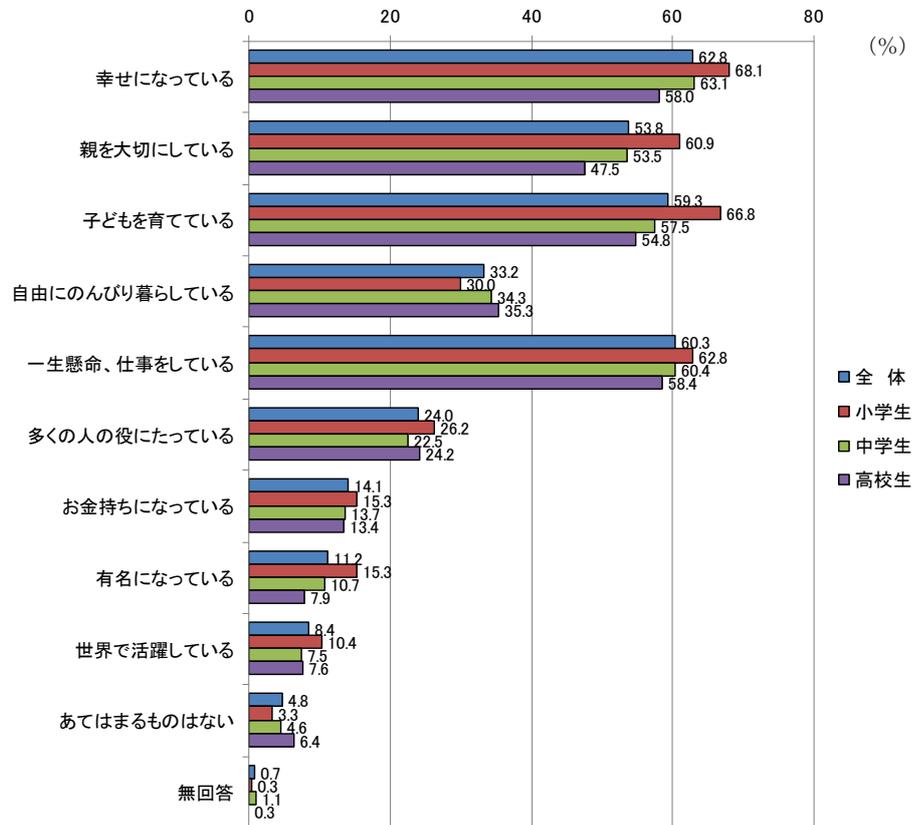


図 40歳くらいになったときの状態

回答数 全体=7,147 小学生=2,254 中学生=2,778 高校生=2,062

『40歳になったときのイメージと成績の自己評価』

◎ 「成績の自己評価」が高い子の方が40歳のとき幸せになっているとイメージする割合が高い。

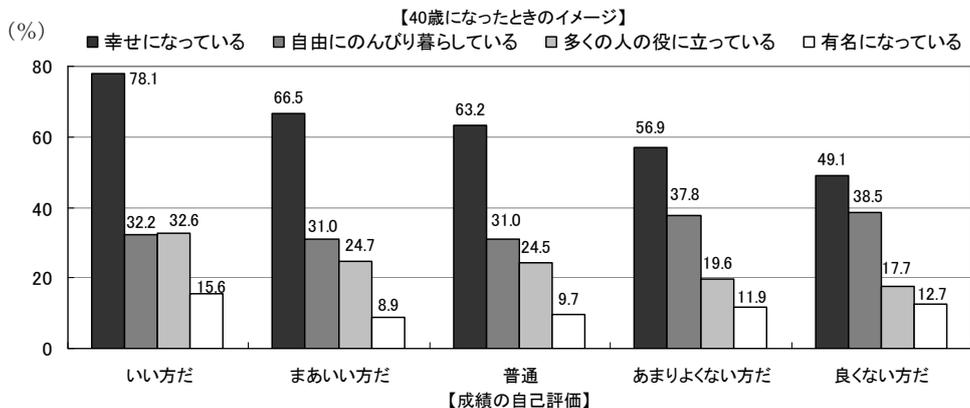


図 成績の自己評価別の40歳になったときのイメージ

将来の仕事について

■あなたは将来どんな仕事をしたいですか。(複数回答)

◇ 全体では、「自分に向いている仕事」が 69.8%で最も多く、次いで「好きなことができる仕事」が 60.6%、「楽しい仕事」が 52.0%、「自分の能力をいかせる仕事」が 50.4%、「安定した仕事」が 45.6%、「人に感謝される仕事」が 39.1%、「給料の高い仕事」が 39.0%、となっている。

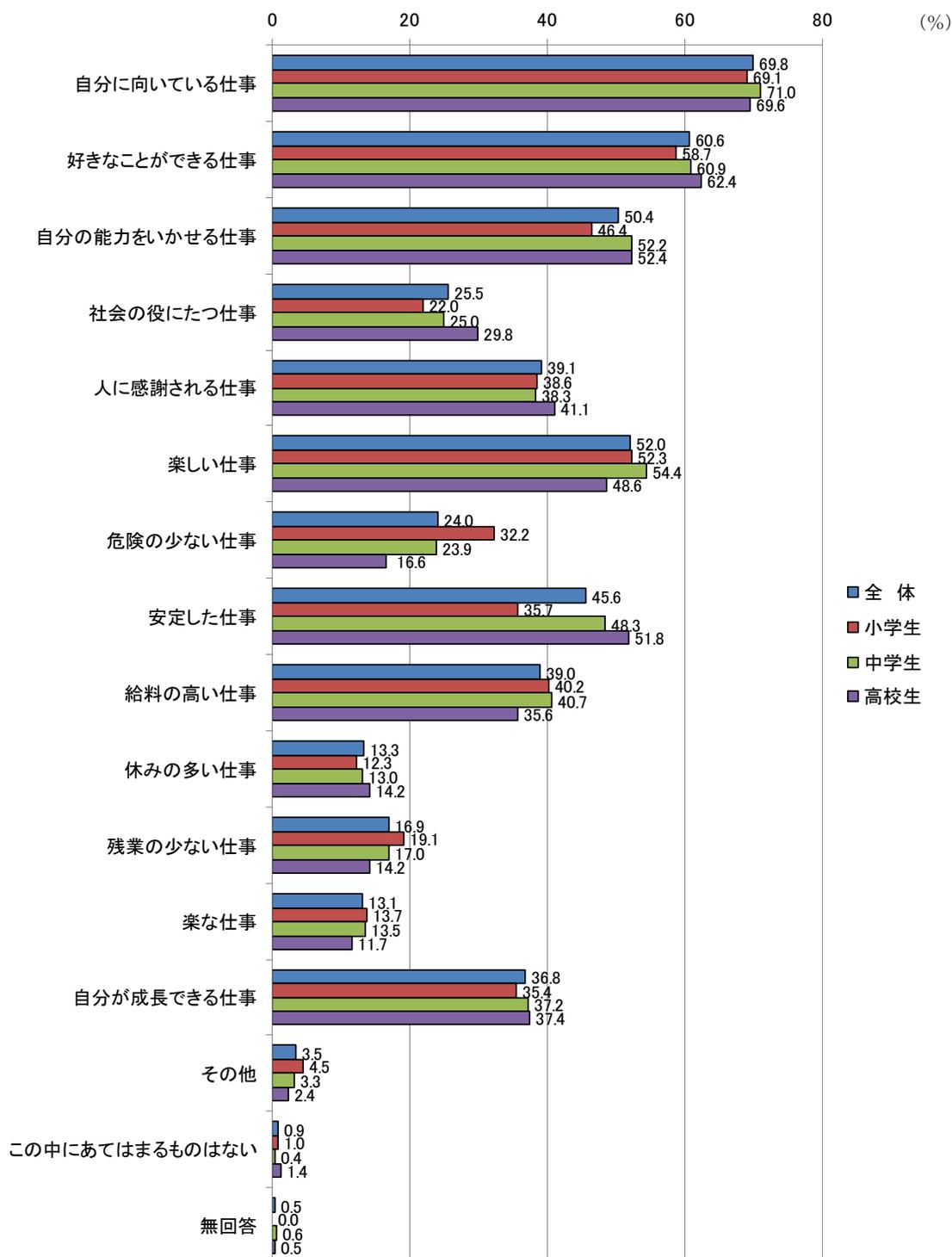


図 将来自分がやりたい仕事

回答数 全体=10,546 小学生=3,017 中学生=4,223 高校生=3,216

進学最終目標

■あなたの進学最終目標はどこですか。

- ◇ 全体では、「大学まで」が48.6%と最も多く、次いで「専門学校まで」が7.3%、「高校（職業科）まで」が6.2%、「大学院まで」が6.1%となっている。また、「まだ決めていない」が17.1%である。
- ◇ 「大学まで」と回答した人は高校生で最も高い。

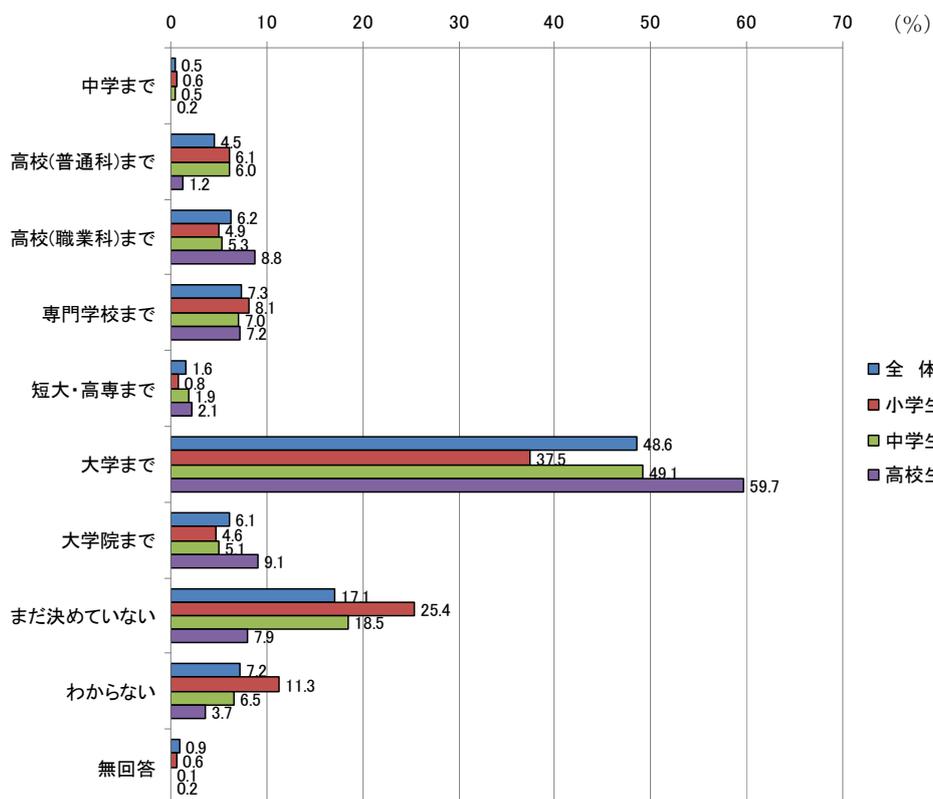


図 進学最終目標

回答数 全体=2,148 小学生=627 中学生=845 高校生=657

『最終進学目標と親が希望する子どもの進路』

- 親が高校卒業までの進学を考えている子どものうち約18.2%は高校卒業以上の進学（専門学校～大学院）を希望している。

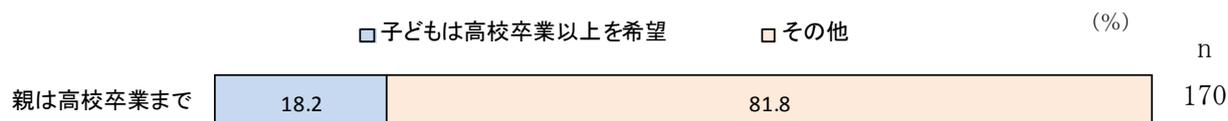


図 親が希望する子どもの進路と子どもの意向

保護者アンケート

両親の就労状況について

(1) 父親

◇ 父親の就労状況では、「就労している」が97.2%である。

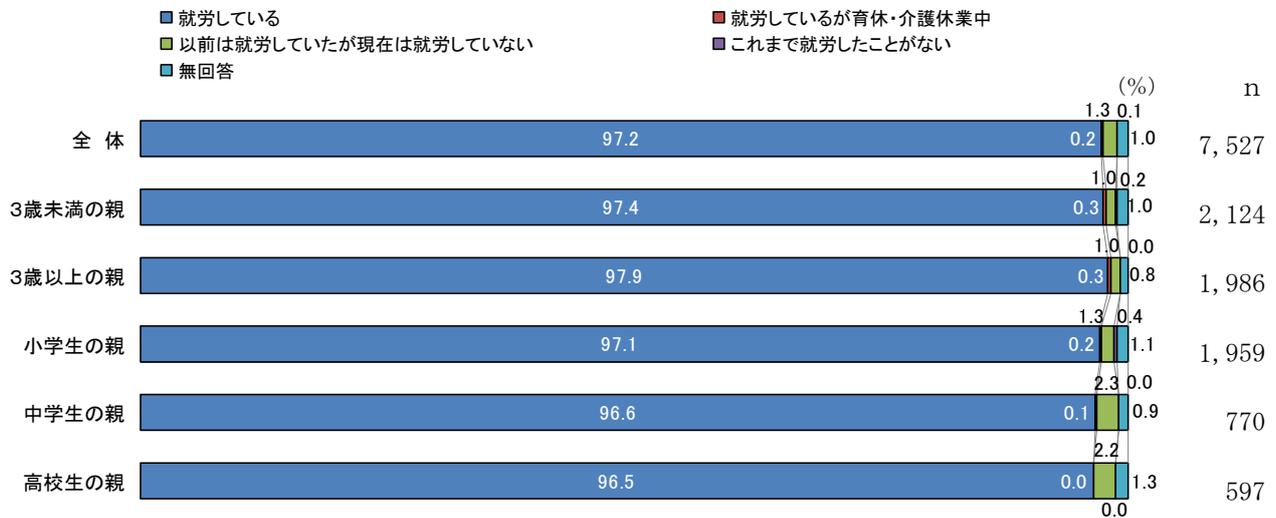


図 父親の就労状況

【5年前からの変化】

・全体では、父親の就労している割合が約8%増えた。

(2) 母親

◇ 母親の就労状況では、「就労している」が54.1%である。

◇ 父親の割合とは違い、「以前は就労していたが現在は就労していない」が36.6%と高めている。

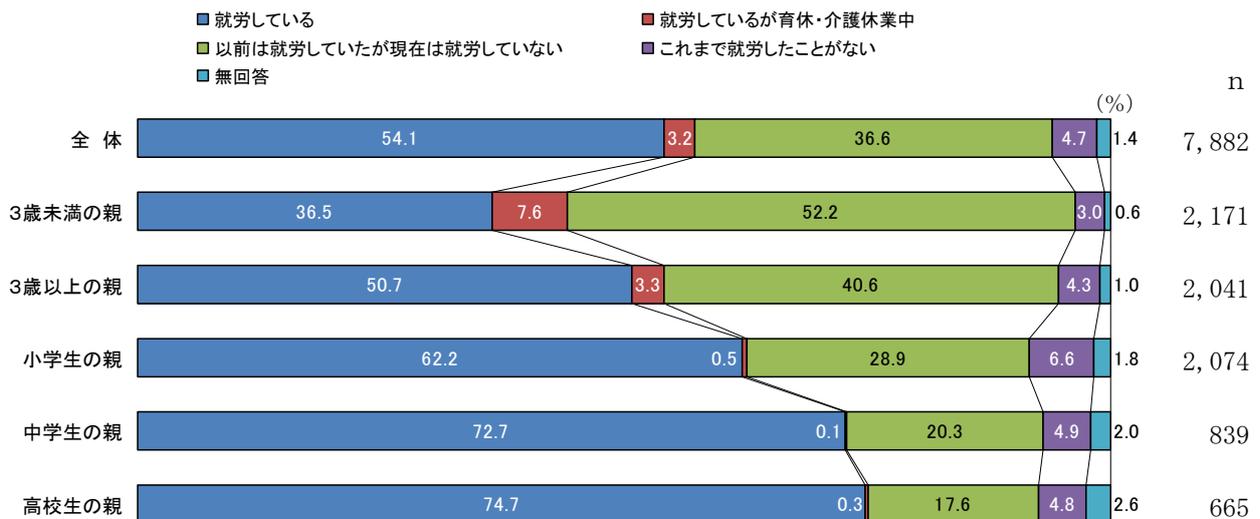


図 母親の就労状況

【5年前からの変化】

・母親の就労状況は5年前と大きく変わっていない。

母親の就労形態について

■母親のかたの就労形態にあてはまるものを選んでください。(1つ)

- ◇ 「パート・アルバイト」が50.2%と最も多く、次いで「正社員」が23.7%、「公務員」が6.8%、「派遣・契約社員」が5.4%、「自営業・自由業」が4.2%となっている。
- ◇ 3歳未満の親は「正社員」の割合が41.0%と高く、小学生以上の親は「パート・アルバイト」の割合が高い。

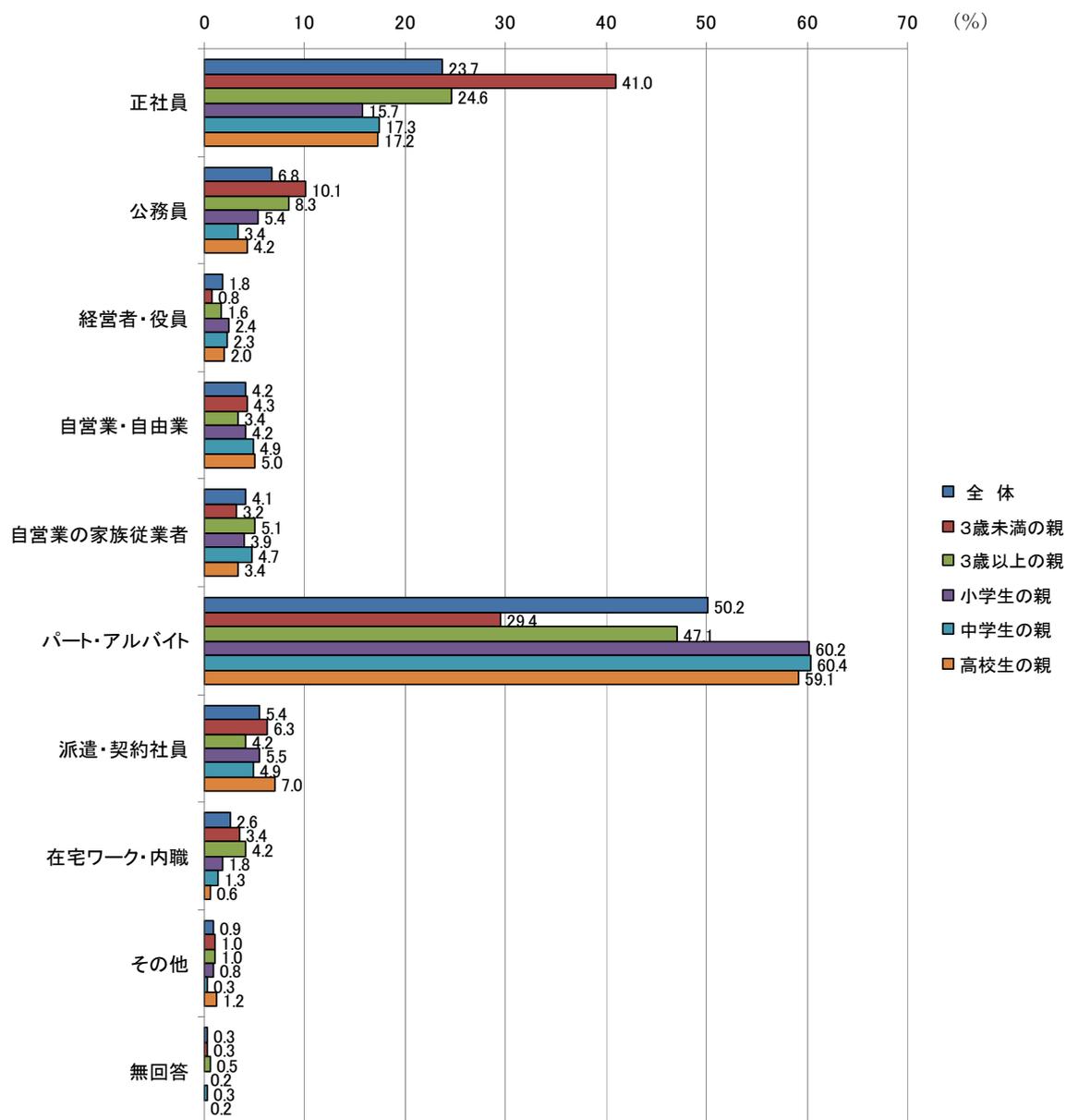


図 母親の就労形態

回答数 全体=4,519 3歳未満の親=958 3歳以上の親=1,103
小学生の親=1,300 中学生の親=611 高校生の親=499

【5年前からの変化】

- ・全体では、正社員の人が約6%増え、自営業の家族従業員の人が約4%減った。

在宅の母親の就労希望

■母親のかたは、今後、就労の希望がありますか。(1つ)

- ◇ 就労希望は全体の70%以上であり、「1年より先で、一番下の子ども(子どもが1人の場合はあて名のお子さん)が()歳くらいになったら、就労したい」が50.4%と最も多い。
- ◇ 「すぐにでも若しくは1年以内に就労したい」が22.8%「就労の希望はない」は24.0%である。

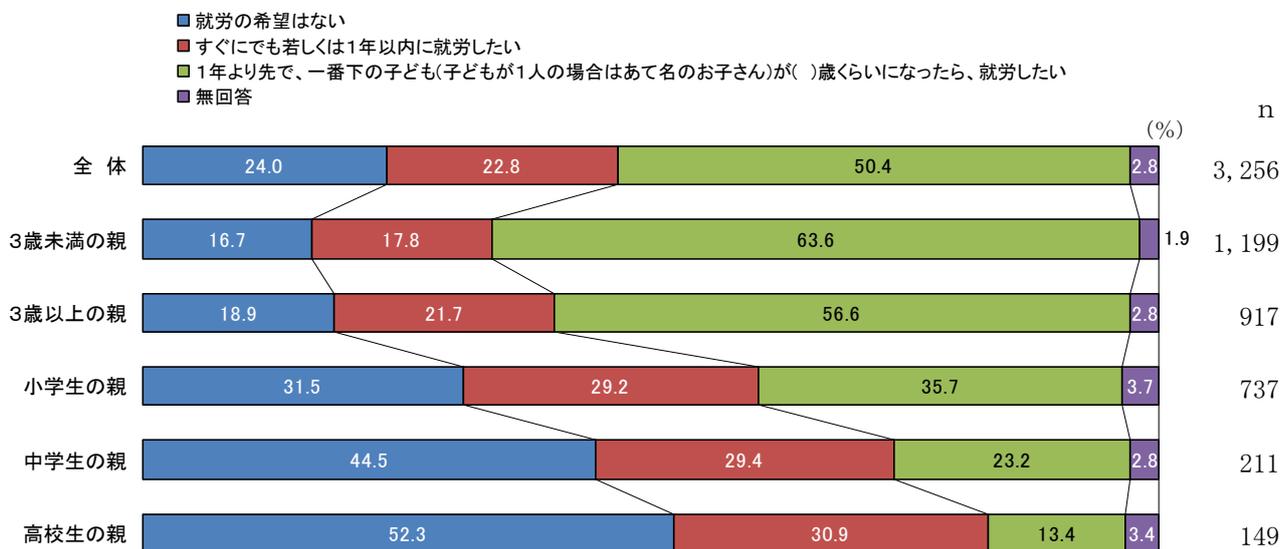


図 母親の今後の就労希望

【5年前からの変化】

- ・全体では、1年より先で、子どもがある年齢になったら就労したい人が約5%増え、就労の希望がない人が約5%減った。

育児休業の取得について（就学前）

■あて名のお子さんについて育児休業を取得しましたか。（1つ）

- ◇ 全体では「育児休業を利用しなかった」が68.6%、次いで「母親が取得した」が25.5%となっている。
- ◇ 3歳未満の親は「母親が取得した」（差4.3%）が多く、対して3歳以上の親は「育児休業を利用しなかった」（差5.0%）が多い。

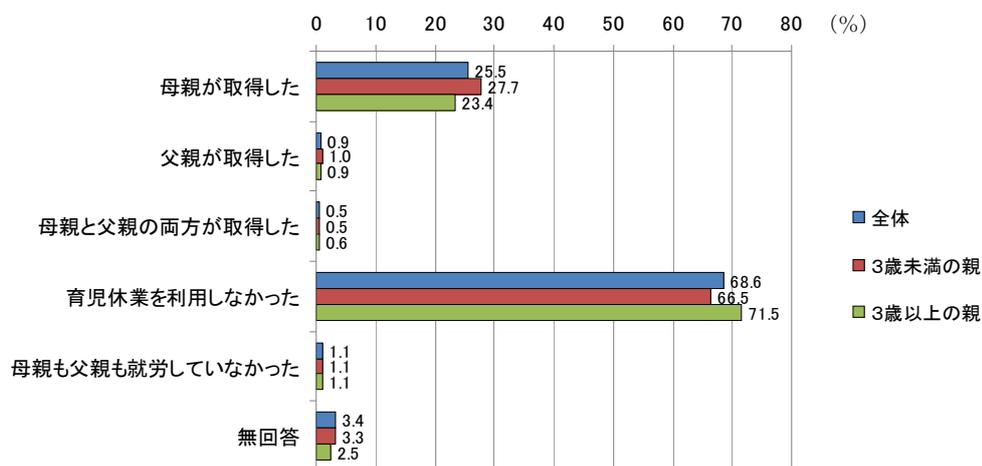


図 育児休業の取得

回答数 全体=4,311 3歳未満の親=2,173 3歳以上の親=2,047

【5年前からの変化】

- ・ 全体では、育児休業を利用しなかった割合が約19%、育児休業を母親が取得した割合が約11%増えた。
- ・ 全体では、就労していなかった割合が約25%減った。

今後の教育・保育事業の利用希望について（就学前）

■あて名のお子さんに関して、今後利用したい、またはもっと多く利用したいと思う教育・保育の事業は何ですか。（2つまで）

《今後利用したい教育・保育事業と「現在利用しており、そのままが良い」と回答した人の合計》

- ◆ 全体では「私立幼稚園」が28.1%、「公立保育所」が21.4%、「私立保育所」が21.2%、「私立幼稚園預かり保育」が16.1%であり、「公立幼稚園」が11.1%となっている。
- ◆ 3歳未満では、「私立幼稚園」が28.7%、「公立保育所」が25.9%、「私立保育所」が24.1%、「公立幼稚園」が16.1%となっている。
- ◆ 3歳以上では、「私立幼稚園」が27.8%、「私立保育所」が18.3%、「私立幼稚園預かり保育」が17.6%、「公立保育所」が16.7%等となっている。

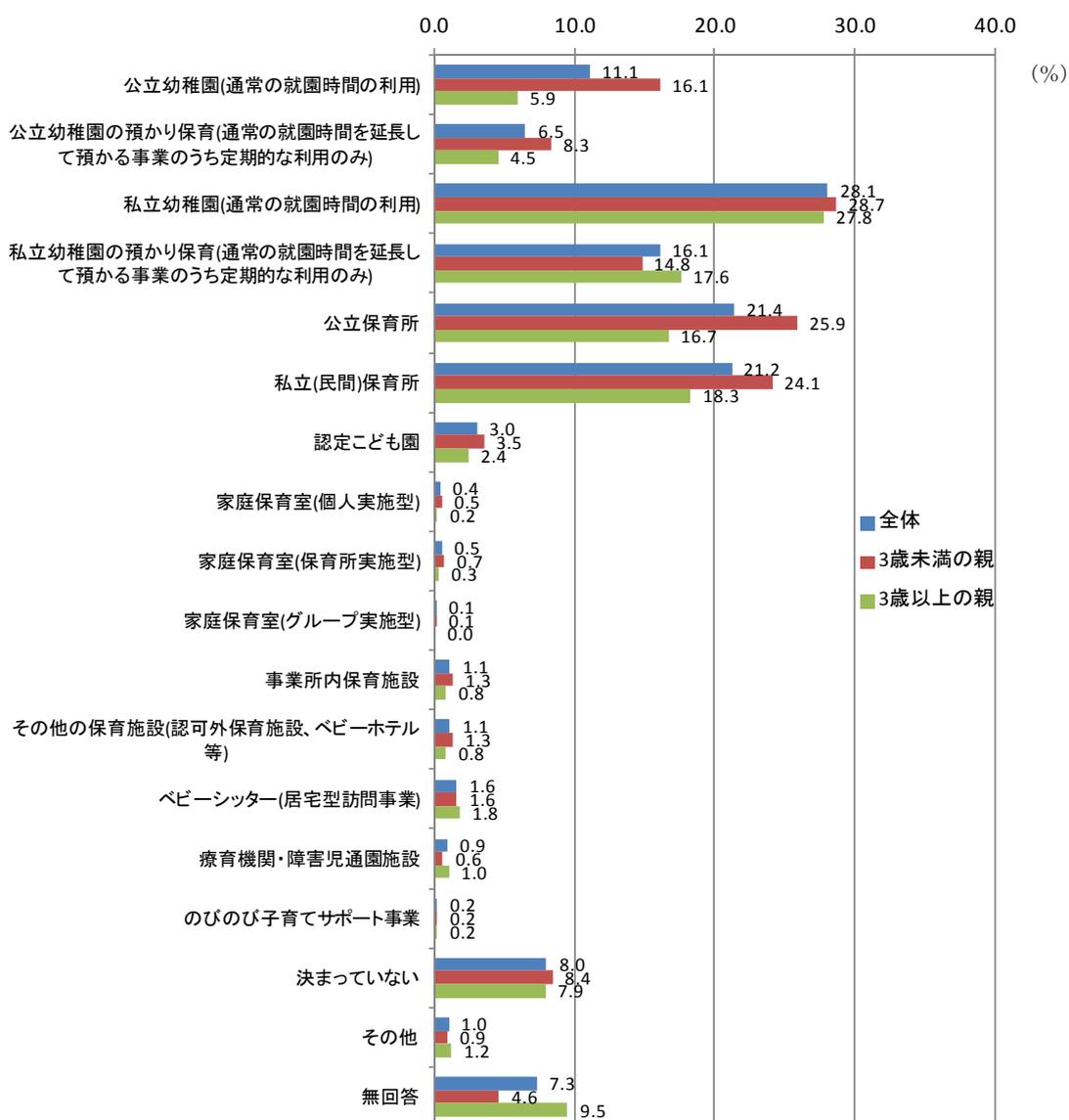


図 現在の利用+問6今後の利用希望と回答した人が利用している事業 ※

回答数 全体=5,589 3歳未満の親=3,079 3歳以上の親=2,397

※問6で回答した人の事業と「現在利用しており、そのままよい」という人の事業を合計した。

(注) 全体には属性の「無回答」を含む

■教育・保育事業を利用していないおもな理由は何ですか。(複数回答)

- ◇ 全体では「子どもがまだ小さいため、()歳になったら教育・保育事業を利用しようと考えている」が 52.9%、次いで「(子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 利用する必要がない」が 41.4%となっている。
- ◇ 3歳未満の親は「利用する必要がない」(差 8.2%)、「子どもがまだ小さいため、()歳になったら教育・保育事業を利用しようと考えている」(差 29.4%)が多く、対して3歳以上の親は「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」(差 6.3%)、「利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない」(差 9.4%)が多い。

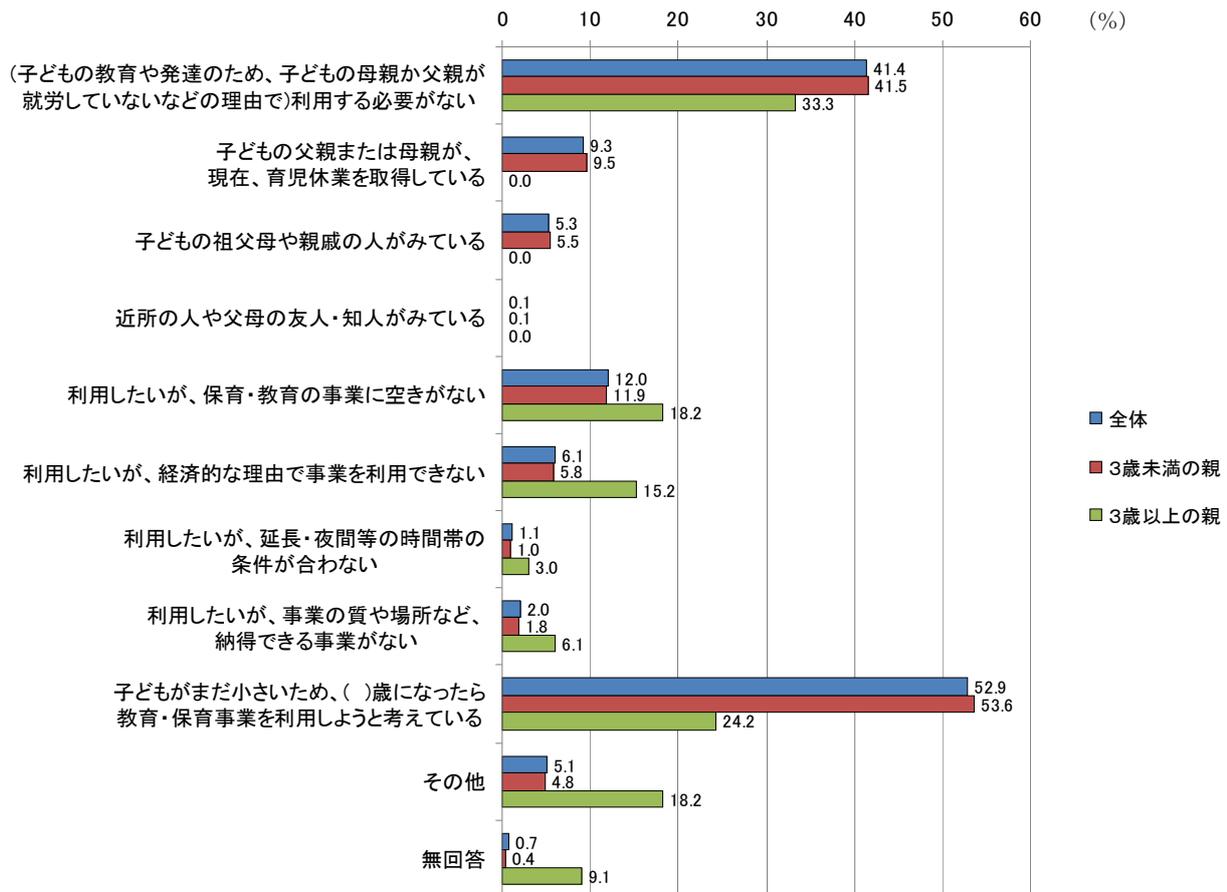


図 教育・保育事業を利用していない理由
 回答数 全体=1,928 3歳未満の親=1,856 3歳以上の親=42

【5年前からの変化】

- ・全体では、事業を利用していない理由として、子どもがまだ小さいためが約 24%、保育、教育事業に空きがないが約 8%、現在、育児休業を取得している、経済的な理由で利用できないが約 4%増えた。

子育てを通じて良かったと感じたことについて

■子育てを通じて良かったと感じたことについて。(3つまで)

◇ 「子どもといることで幸福感を感じる」が75.3%と最も多く、次いで「子どもとともに自分も成長できた」が48.9%、「子どもの成長をみると充実感を感じる」が44.5%、「自分が育ててもらったことを感謝できるようになった」が42.6%となっている。

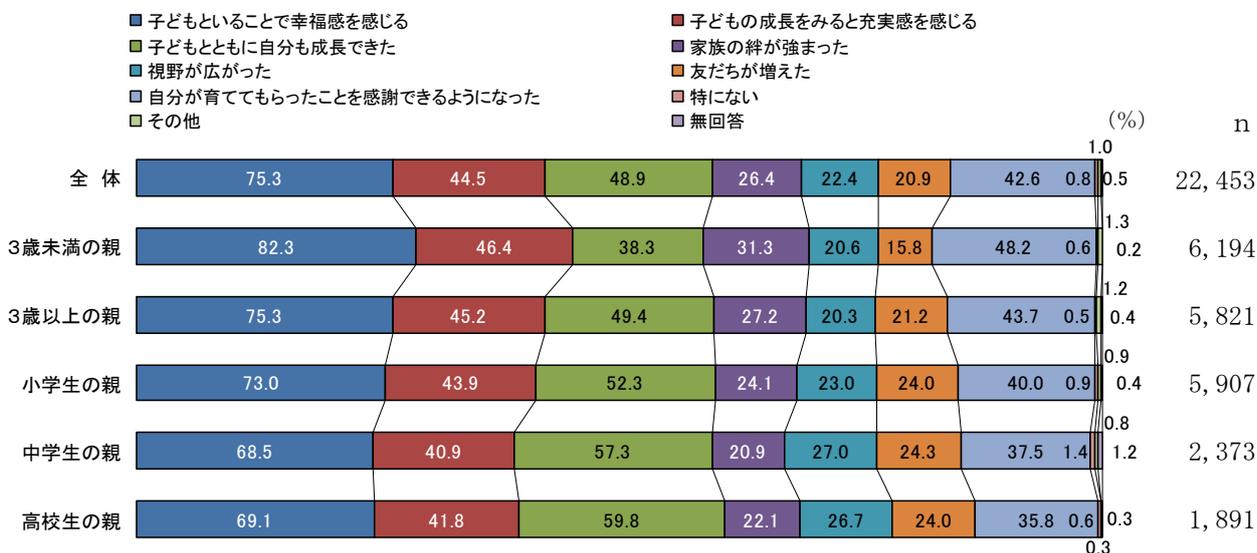


図 子育てを通じて良かったと感じたこと

【5年前からの変化】

- ・全体では、育ててもらったことを感謝できるようになった人が約6%増え、友だちが増えたと感じる人が約5%減った。

子育ての悩みや不安について

■あて名のお子さんを育てている間に、どんなことに悩んだり、不安に感じたり、困ったりしましたか。(3つまで)

- ◇ 全体では、「子どものしつけ・生活習慣のこと」が55.5%と最も多く、次いで「子どもの病気・健康のこと」が33.8%、「子どもの発育・発達のこと」が22.0%、「子育て中に自分のやりたいことができなくてあせるなどのストレスを感じたこと」が21.8%となっている。
- ◇ 「子育て中に自分のやりたいことができなくなるなどのストレスを感じたこと」は、3歳未満の親が31.2%と最も高い。
- ◇ 年齢が上がるにつれ、「子どもの成績や勉強のこと」「子どもの友人関係のこと」についての割合が高くなる。

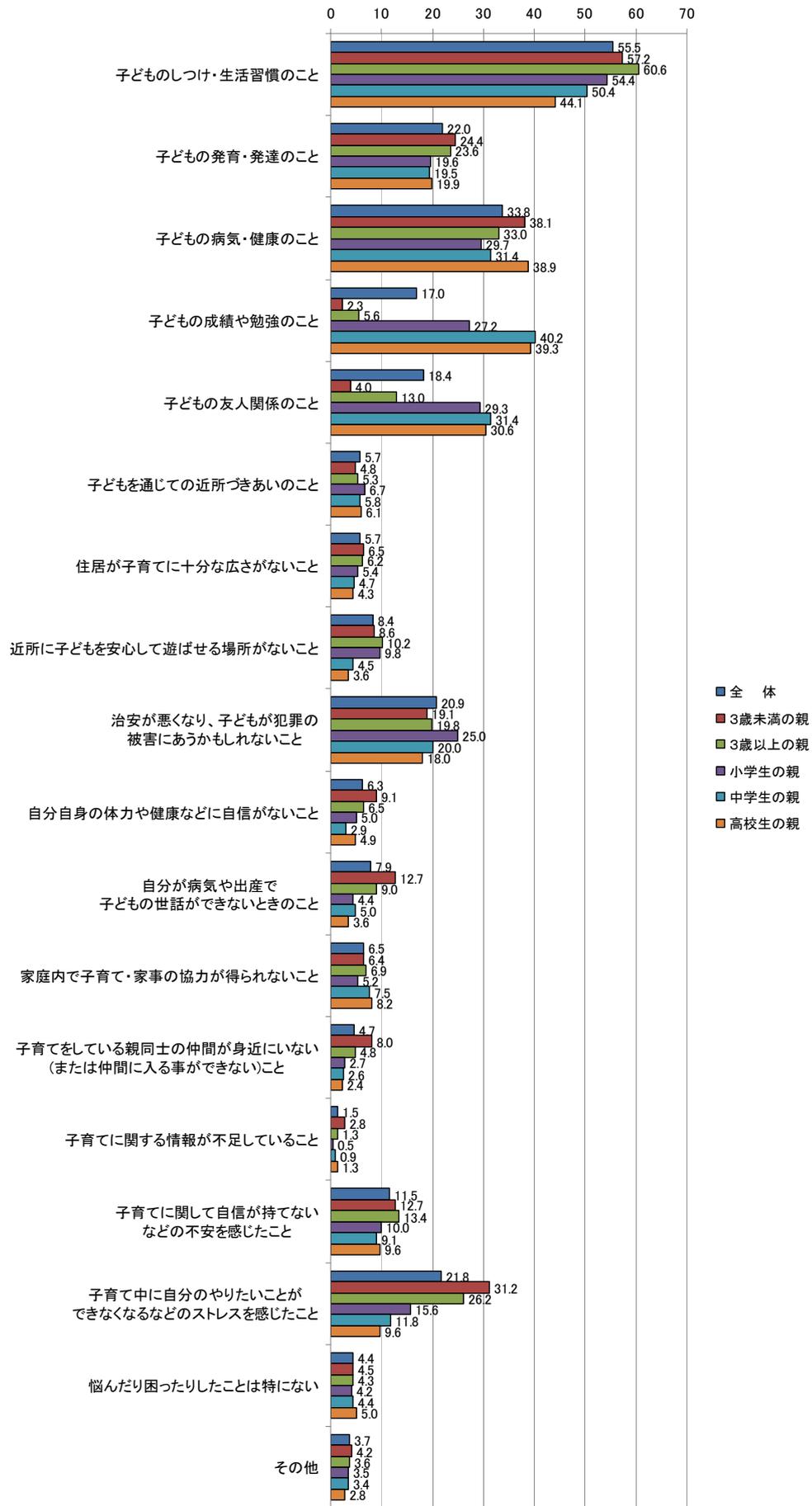


図 子育ての悩みや不安について

回答数 全体=20,298 3歳未満の親=5,575 3歳以上の親=5,204
 小学生の親=5,407 中学生の親=2,177 高校生の親=1,702

【5年前からの変化】

- ・全体では、病気、健康のことが約9%、発育、発達のことを約7%、子育てにストレスを感じたことが約4%増えた。
- ・全体では、子どもが犯罪の被害にあうことが約17%減った。
- ・病気、健康のことの増加量は10.4%と未就学児の親が、発育、発達のことを増加量は7.2%と高校生の親が、子育てにストレスを感じたことの増加量は2.1%と小学生の親がそれぞれ最も多い。
- ・子どもが被害にあうことの割合の減少量は19.0%と未就学児の親が最も多い。
- ・子育てにストレスを感じる親は全体では増えているが、中学生と高校生の親は減少している。

	病気・健康のこと		変化量	発育・発達のこと		変化量
	平成20年	平成25年		平成20年	平成25年	
未就学児の親	25.2	→ 35.6	10.4↑	17.8	→ 24.0	6.2↑
小学生の親	23.1	→ 29.7	6.6↑	12.6	→ 19.6	7.0↑
中学生の親	24.4	→ 31.4	7.0↑	14.9	→ 19.5	4.6↑
高校生の親	30.1	→ 38.9	8.8↑	12.7	→ 19.9	7.2↑

	子育てにストレスを感じる		変化量	犯罪の被害にあうこと		変化量
	平成20年	平成25年		平成20年	平成25年	
未就学児の親	28.0	→ 28.7	0.7↑	38.5	→ 19.5	19.0↓
小学生の親	13.5	→ 15.6	2.1↑	41.9	→ 25.0	16.9↓
中学生の親	12.5	→ 11.8	0.7↓	34.8	→ 20.0	14.8↓
高校生の親	10.7	→ 9.6	1.1↓	28.0	→ 18.0	10.0↓

名古屋市の子育て支援の取り組みについて

■名古屋市の子ども・子育て支援への取り組みについて（各1つ）

【満足度】

- ◇ 「医療費助成や子育てにかかる各種サービスの費用の軽減など、経済的な支援の充実」の「満足する」割合が28.8%と最も高く、次いで「安心して出産や子育てができる医療サービスの充実」が27.0%、「住宅や遊び場・公園の整備など、子育てしやすいまちづくり」が15.0%となっている。
- ◇ 「満足する」割合が高い3項目は、「期待する」割合が高い3項目と全く同じである。
- ◇ 「満足しない」の割合が高いのが、「受験戦争やいじめの解消等のゆとりのある教育の実現」（39.9%）、「住宅や遊び場・公園の整備など、子育てしやすいまちづくり」（39.3%）、「労働時間の短縮、育児休業や介護休暇制度など家庭生活と両立する職場環境の整備」（35.9%）である。

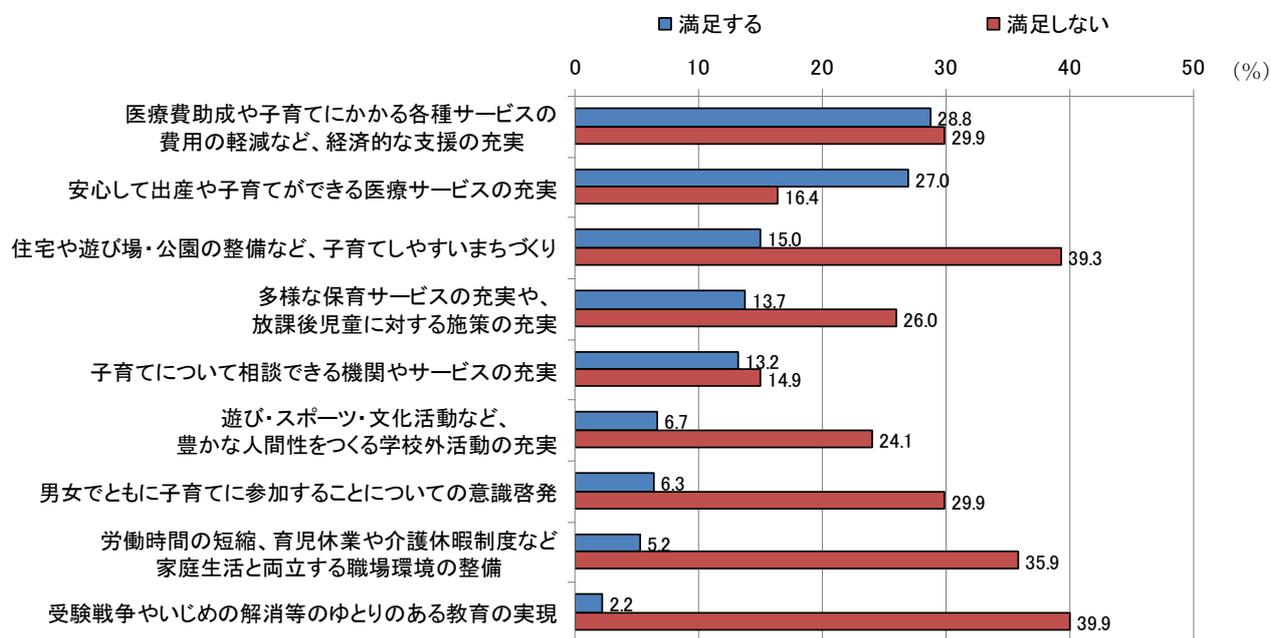


図 名古屋市の子育て支援への取り組みについて：満足度

回答数 全体=7,927

【5年前からの変化】

- ・「医療費助成や子育てにかかる各種サービスの費用の軽減など、経済的な支援の充実」の満足度は9.7%から28.8%に増加した。（不満割合は50.9%から29.9%に減少）
- ・「安心して出産や子育てができる医療サービスの充実」は19.1%から27.0%に増加した。（不満割合は27.6%から16.4%に減少）
- ・「子育てについて相談できる機関やサービスの充実」は10.2%から13.2%に増加した。（不満割合は16.2%から14.9%に減少）

理想の子どもの人数

■あなたには何人のお子さんがいますか。また、理想としては、子どもは何人いるのが望ましいとお考えですか。(各1つ)

◇理想とする子どもの人数の平均は2.59人に対して、実際の子どもの人数の平均は2.04人であり、理想より2割程度低い値となっている。

【理想とする人数】

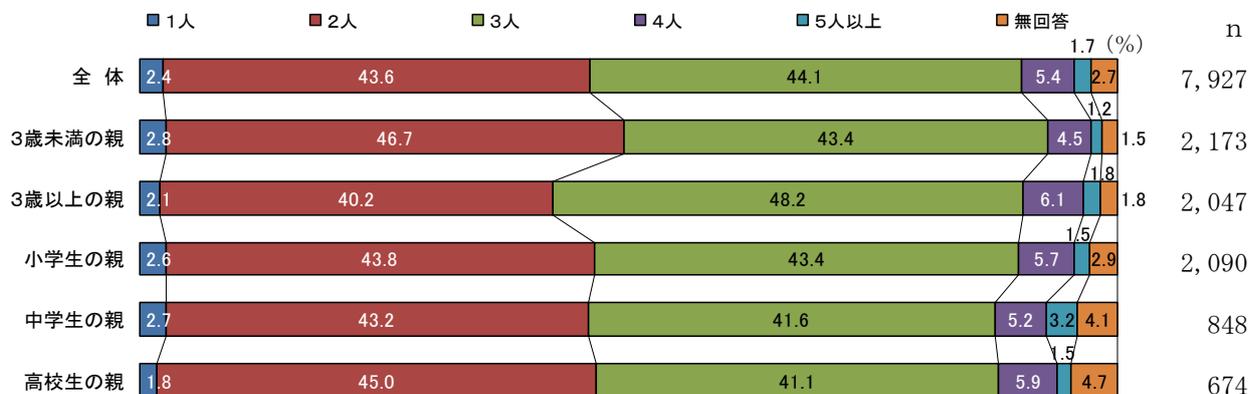


図 理想とするお子さんの人数

【5年前からの変化】

・理想とする子どもの人数の平均と実際の子どもの人数の平均の差は0.55人となっており、前回調査と較べて、0.03人、差が広がっている。

◇実際の子どもの人数は、「2人」が52.6%、次いで「1人」が23.3%となっており、理想とする子どもの人数は、「3人」が44.1%、次いで「2人」が43.6%となっている。

【お子さんの人数】

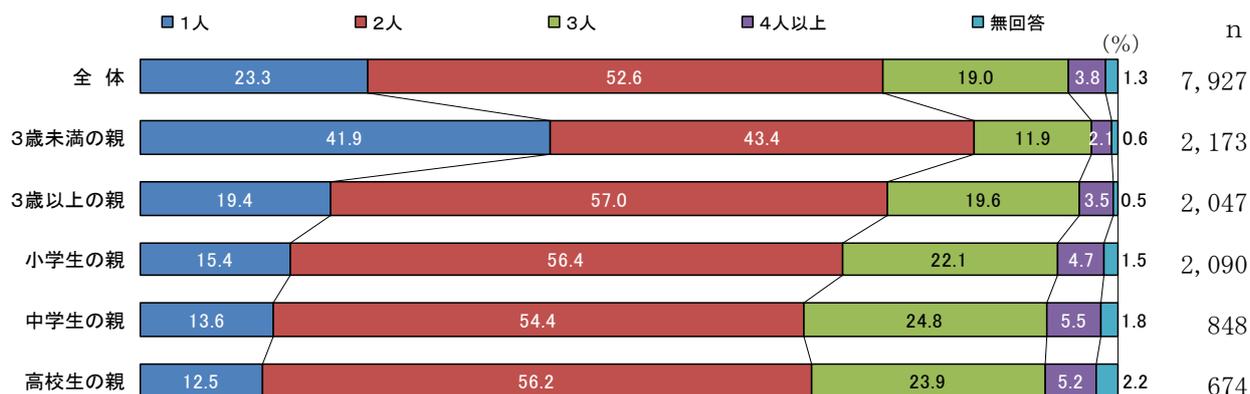


図 お子さんの人数

【5年前からの変化】

・全体では、実際の子どもの人数が1人の家庭が約3%増え、3人の家庭が約4%減った。(1世帯あたりの子どもの人数が減っている)

理想の子どもより少ない理由

(1) お子さんの人数が理想とする人数より少ない理由は何ですか。(3つまで)

- ◇ 全体では、「経済的に余裕がないから」が47.7%と最も多く、次いで「子育ての身体的・精神的な負担が大きいから」が27.0%、「自分または配偶者の年齢上の理由から」が21.3%、「今後、出産の予定がある(出産を希望する)」が20.6%、「仕事と子育ての両立が難しいから」が19.4%、「住宅が狭いから」が14.7%となっている。
- ◇ 「経済的に余裕がないから」は、小学生の親が52.5%、3歳以上の親が51.1%と割合が高くなっている。
- ◇ 「今後、出産の予定がある(出産を希望する)」を回答した人は、40.9%と特に3歳未満の親が多い。

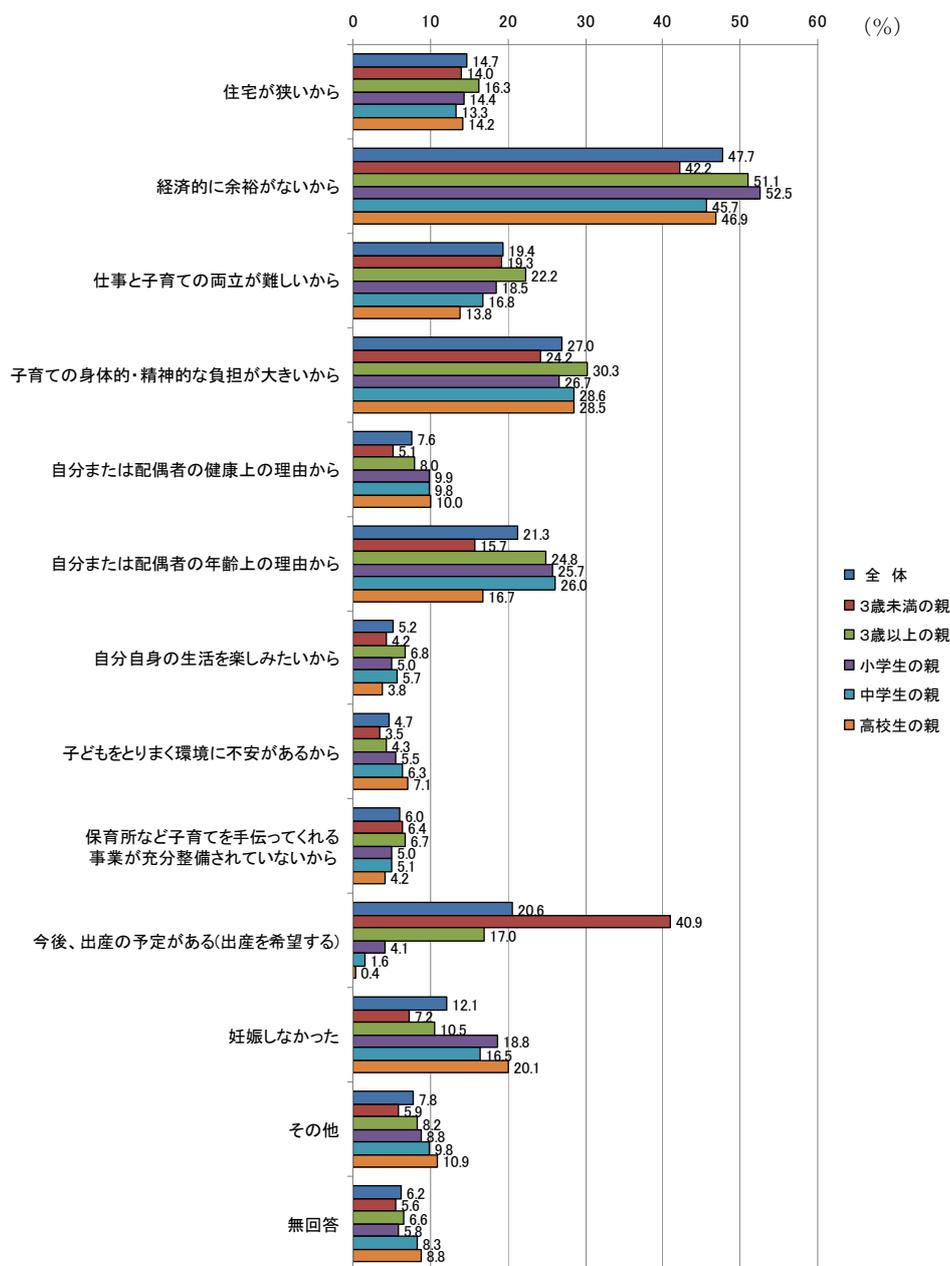


図 子どもの人数が理想より少ない理由

回答数 全体=8,038 3歳未満の親=2,833 3歳以上の親=2,295

小学生の親=1,765 中学生の親=610 高校生の親=443

【5年前からの変化】

- ・全体では、今後出産の予定（希望）がある人が約5%、年齢上の理由からが約4%増えた。
- ・全体では、子育て事業が十分に整備されていないから、子どもをとりまく環境に不安があるからが、約4%減った。

仕事と生活のバランス

■あなたの家庭では仕事と生活のバランスはとれていると感じていますか。（1つ）

（1）父親

- ◇ 全体では、「仕事を中心となっており、もう少し家庭生活の比重が高まるとよい」が37.0%と最も多く、次いで「仕事と家庭生活（育児を含む）のバランスがとれている」が22.5%、「仕事を中心となっているが、今のままでよい」が21.3%となっている。
- ◇ 子育て段階別にみると、3歳未満の親では「仕事を中心となっており、もう少し家庭生活の比重が高まるとよい」が45.6%と特に高い。

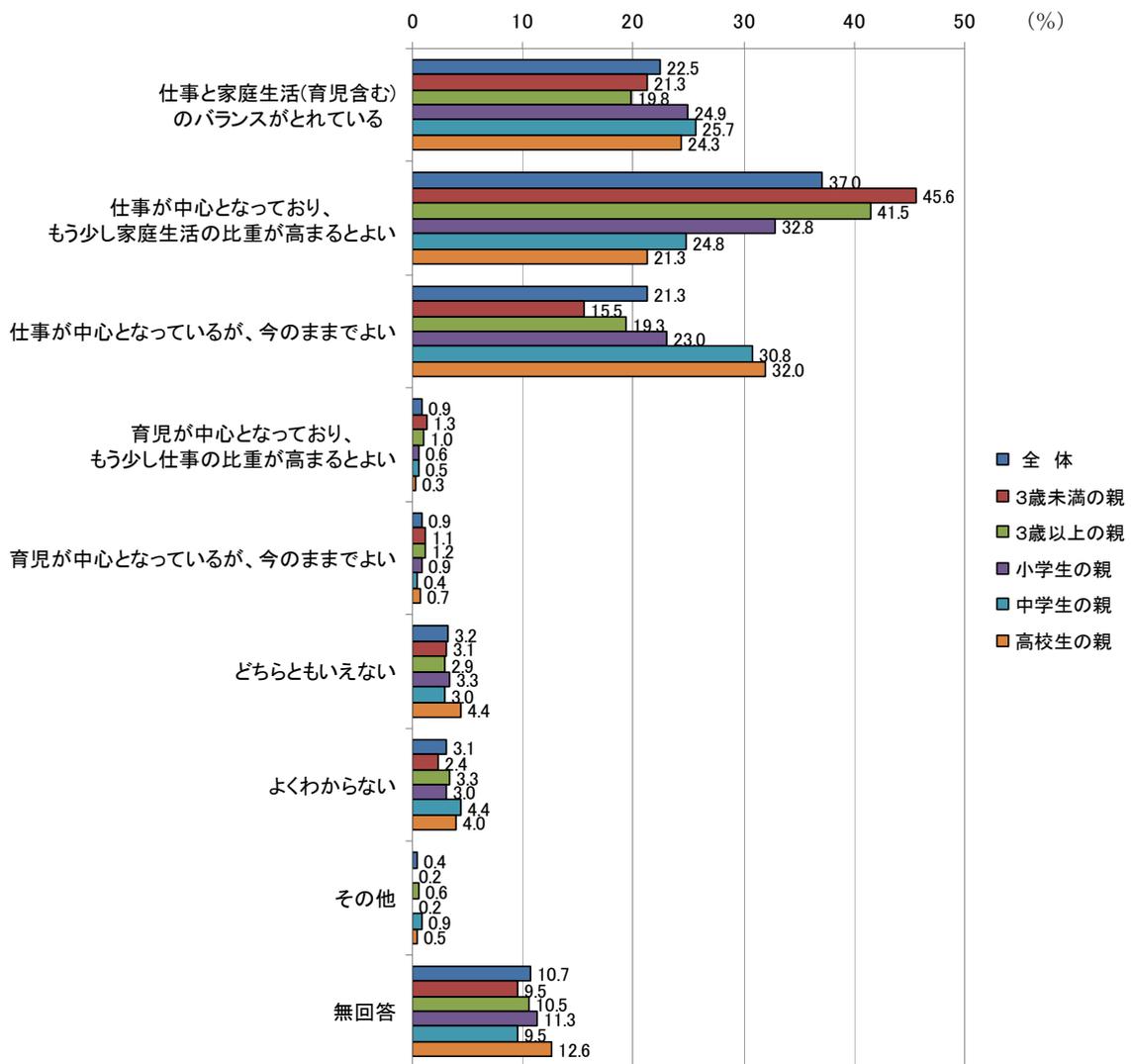


図 父親の仕事と生活のバランス

回答数 全体=7,527 3歳未満の親=2,124 3歳以上の親=1,986
小学生の親=1,959 中学生の親=770 高校生の親=597

【5年前からの変化】

・父親の仕事と生活のバランスについては5年前と大きく変わっていない。

(2) 母親

- ◇ 全体では、「育児が中心となっているが、今のままでよい」が25.1%と最も多く、次いで「仕事と家庭生活（育児を含む）のバランスがとれている」が20.9%、「仕事を中心となっており、もう少し家庭生活の比重が高まるとよい」が13.6%、「仕事を中心となっているが、今のままでよい」が13.6%となっている。
- ◇ 子育て段階別にみると、3歳未満の親では「育児が中心となっているが、今のままでよい」が35.1%と特に高い。

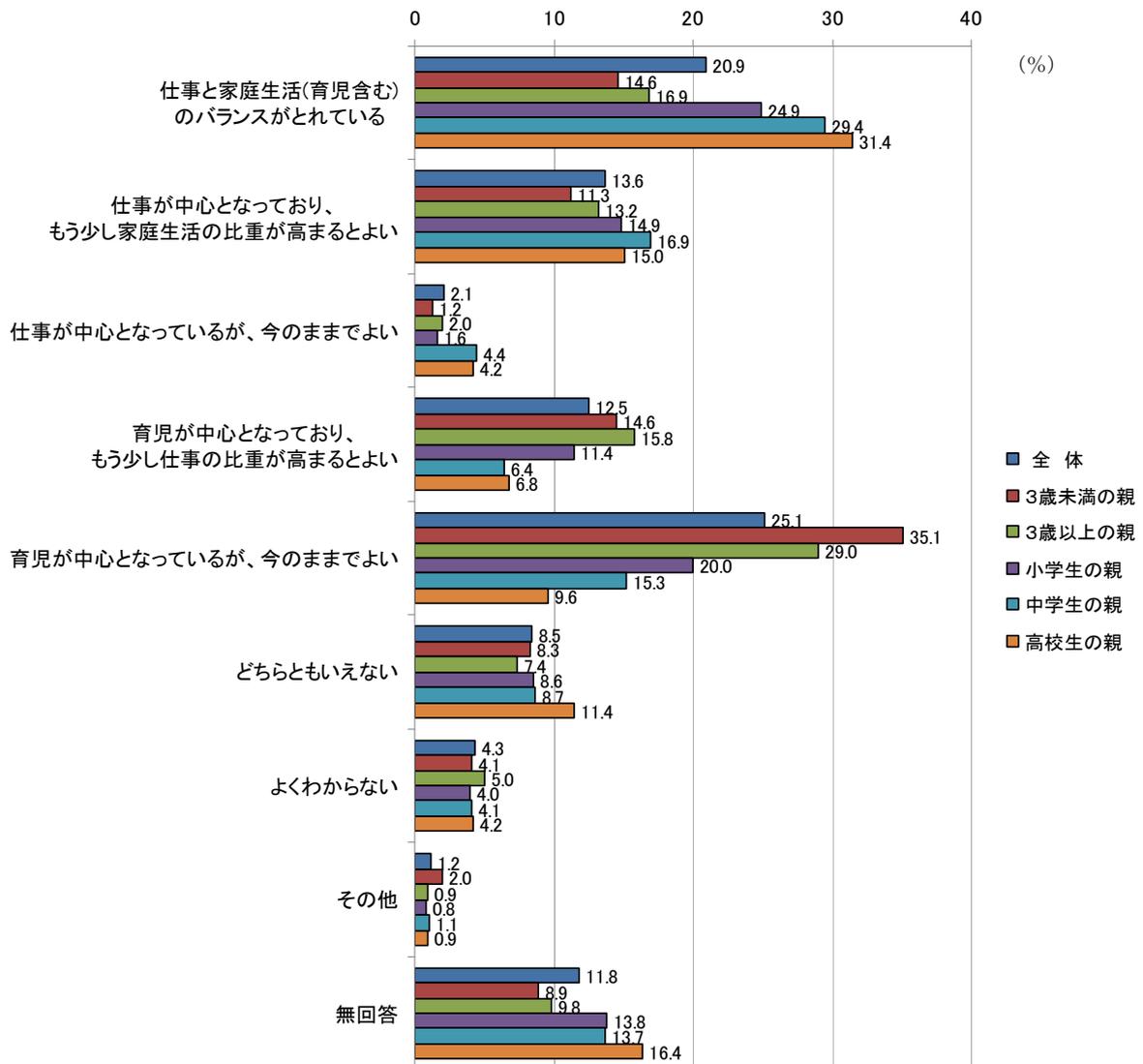


図 母親の仕事と生活のバランス

回答数 全体=7,882 3歳未満の親=2,171 3歳以上の親=2,041

小学生の親=2,074 中学生の親=839 高校生の親=665

子育ての経済的負担について

■あなたの世帯の現在の暮らし向きについて（1つ）

◇ 「普通」と回答した割合が 47.6%と最も多く、次いで「やや苦しい」が 24.8%、「苦しい」が 12.2%となっている。

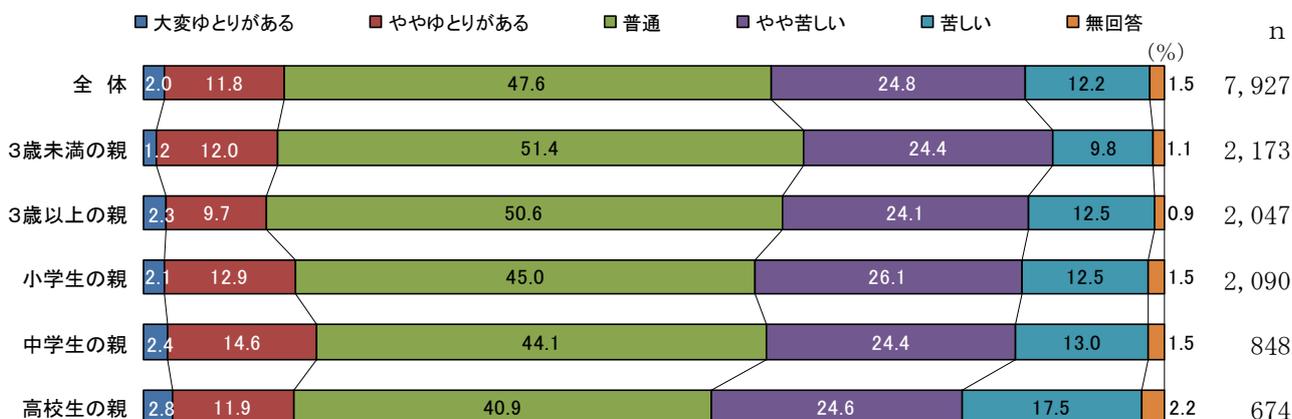


図 世帯の現在の暮らし向き

子育てに対する経済的負担

■これまでに、子育てに経済的な負担を感じたことがありますか。（1つ）

◇ 「感じる」が 37.4%と最も多く、次いで「とても感じる」が 19.1%、「どちらともいえない」が 18.1%となっている。

◇ 高校生の親は「とても感じる」の割合が 27.2%と高い。

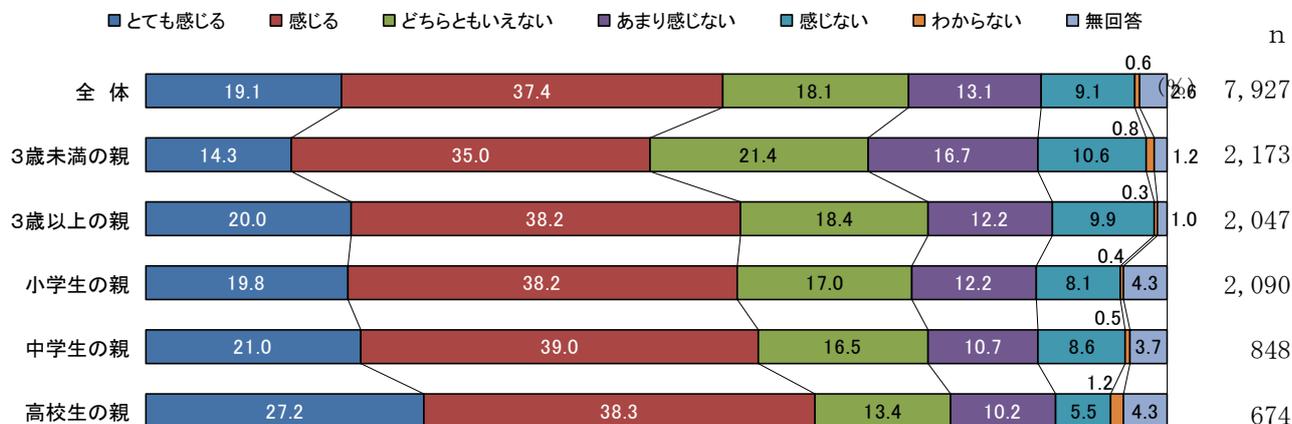


図 子育てに経済的な負担を感じる割合

【5年前からの変化】

- ・全体では、経済的負担を感じる（とても感じる+感じる）人が約 11%減った。
- ・経済的負担を感じる割合の減少量は、中学生の親が 13.4%と最も多い。

	とても感じる+感じる		変化量
	平成 20 年	平成 25 年	
未就学児の親	60.3	53.8	6.5 ↓
小学生の親	69.3	58.0	11.3 ↓
中学生の親	73.4	60.0	13.4 ↓
高校生の親	73.7	65.5	8.2 ↓

特に負担を感じる費用

■特に負担を感じる費用は何ですか。(3つ)

- ◇ 「住居費(家賃・ローン)」が44.6%と最も多く、次いで「幼稚園・保育所費用」が37.4%、「習いごとの費用」が35.4%、「食費」が22.9%、「学習塾の費用」が21.5%となっている。
- ◇ 就学前の場合は、「幼稚園・保育所費用」の割合が高く、高校生になるにつれて「授業料・学費」「学習塾の費用」などの割合が高くなる。

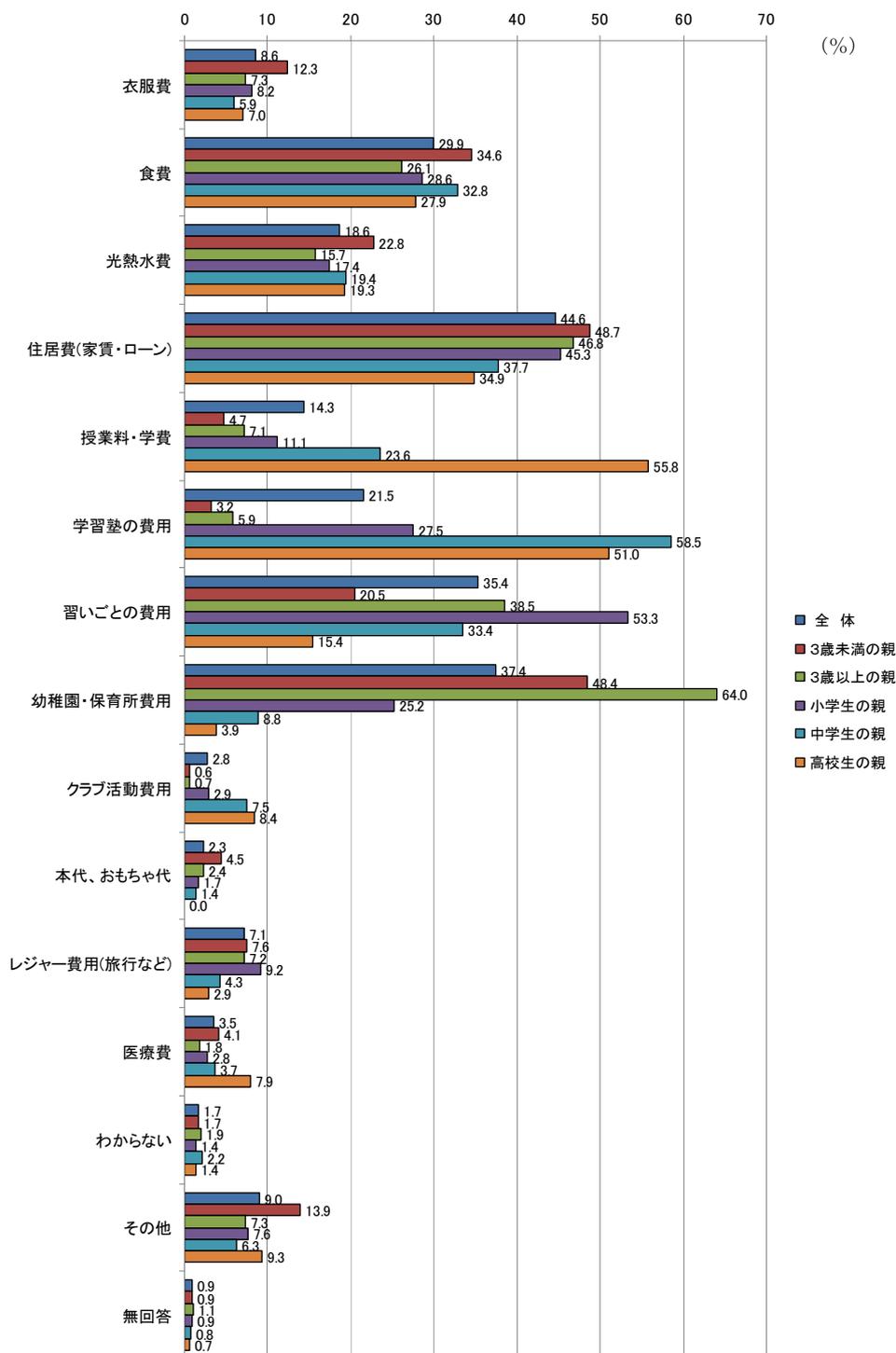


図 子育てで経済的負担を感じる費用

回答数 全体=10,644 3歳未満の親=2,448 3歳以上の親=2,783
小学生の親=2,946 中学生の親=1,254 高校生の親=1,084

【5年前からの変化】

- ・全体では、住居費（家賃、ローン）を負担に感じる人が約22%、幼稚園、保育所費用が約12%、光熱水費が約9%増えた。
- ・全体では、衣服費を負担に感じる人が約18%、学習塾の費用が約12%、授業料、学費、習いごとの費用が約9%、レジャー費用（旅行など）が約8%、医療費が約6%減った。

平日の放課後の過ごし方（就学後）

■あて名のお子さんは平日（学校がある日）をどのように過ごしていますか。（複数回答）

- ◇ 「習いごと」が69.7%と最も多く、次いで「自宅」が68.3%、「学校で行われる部活動」が26.3%、「祖父母宅や友人・知人宅」が21.6%となっている。

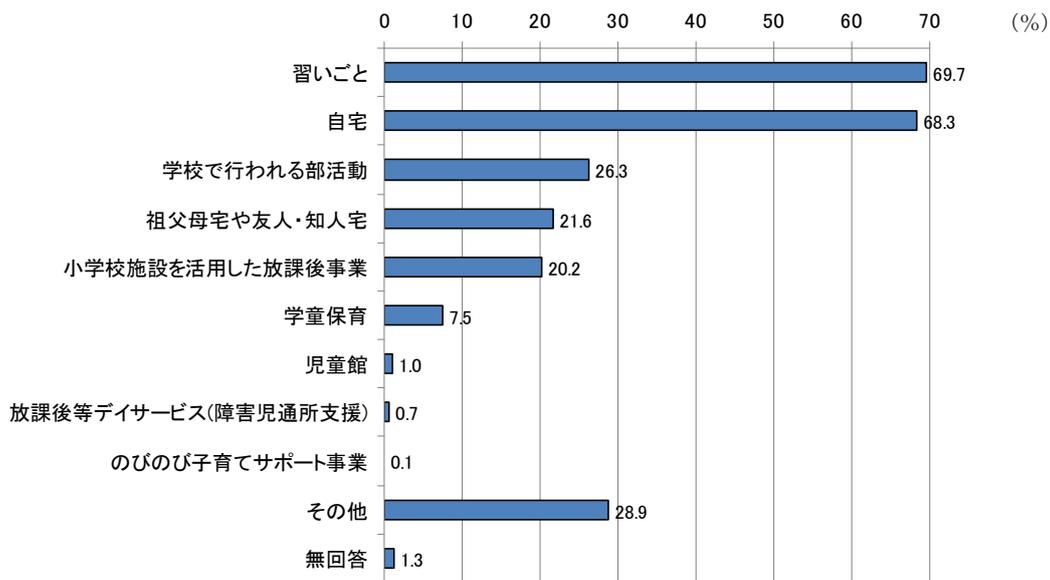


図 お子さんの平日（学校がある日）の過ごし方
回答数 小学生の親=5,131

【トワイライトスクールと学童保育の利用と母親の就労状況】（平日）

- ◇ トワイライトスクールの利用者では「就労している」が68.1%、「以前は就労していたが現在は就労していない」が24.9%、学童保育の利用者では「就労している」が89.6%である。

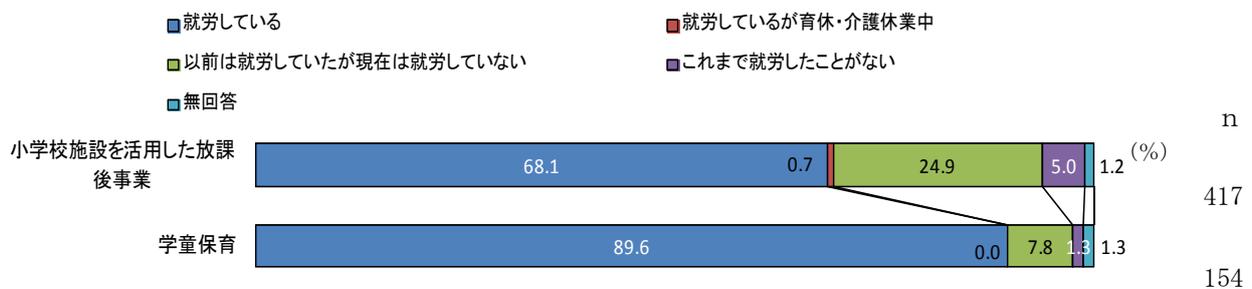


図 トワイライトスクールと学童保育の利用と母親の就労状況